

第1章 調査の概要

田邊 浩

1 調査の目的

この調査では、能美市の総合計画に示されたよりよい能美市に向けての取り組みについて、市民の方々がどのように期待し、どのように評価しているのかを把握することを目的としている。そのことによって、現在の計画の課題が明らかとなり、政策の継続・修正に向けての基礎資料とすることができる。

2 質問項目の主旨

2.1 市の取り組みへの期待と実際

能美市では継続して「市民満足度」調査を実施してきたが、今回の調査では、これまでの調査とは異なり、能美市の重要な取り組みに対する満足度を直接は尋ねていない。取り組みへの市民の期待と、実際の取り組みに対する市民の認識を調べている。取り組みへの期待とその実際の差を測ることにより、満足度を測定することができる。そこから、期待と実際の差から、さまざまな取り組みの問題を明らかにする。

2.2 主な質問項目

主な質問項目は以下のとおりである。

- 定住意思、地域への愛着など
- 都市基盤・産業
- 地域における子育て
- 健康・福祉
- 都市基盤・産業
- 地域の拠点と公共施設
- 地域活動、市民活動、市民と行政の協働
- 市の行政情報提供

その他に採用した質問項目は、総合計画において特に重視されている政策課題を反映したものである。それらの質問項目によって、市民のニーズをより詳細に知ることができる。

2.3 個人属性（性別や年齢、職業、学歴、収入）について

本調査では、市民の方々ご自身とご家族のことについて尋ねている。これは、市政に関する意見は男性と女性とで大きな差があるかどうか、目指すべきコミュニティの方向に関する意見は若者と高齢の方との間で意見に大きな差があるかどうか、などを調べる

ためである。あるいは、意見の相違は、男女差と年齢差とどちらが大きいかなどを調べる。それによって、能美市での意見の男女差や年齢差などを調べることができる。

また、現在の仕事や学生時代の経験は、ライフスタイルや考え方などに影響を与えると考えられる。そこで、それらによって市民の方々のコミュニティに関する意識がどのように異なるのかを調べるために、職業や学歴、収入についても尋ねている。これらのことを調べることで、能美市の市民の市政に関する意識を明らかにする助けにしたいと考えている。

このように、意識の違いや、そのような違いが生じる要因を調べることで、今後の能美市に市民が期待する方向や、能美市の諸政策を考えるための参考にすることができる。

2.4 金沢大学との共同研究

この調査では、能美市の総合計画とその実施状況に対する市民の満足度を知り、よりよい市政に寄与するための基礎資料づくりを目的としている。このような目的を達成すべく、調査研究の経験と実績をもつ金沢大学地域創造学類と協同で調査研究を行うこととした。

3 調査概要

3.1 調査方法

本調査は、郵送法による調査票を用いた調査である。調査対象者に郵便で調査票を送付し、回答していただいた後、回答済みの調査票を封筒に封入して、郵便で返送していただいたものである。

3.2 調査期間

調査の期間としては、2019年9月16日に調査票を発送し、第一次締切を9月24日としたが、24日の段階で督促状を発送し、最終的な締切を10月7日とした。

3.3 調査対象

本調査は、能美市にお住まいの20歳以上80歳未満の市民を対象としたものである。市民には外国人居住者も含んでいる。無作為抽出法により、市民から3000名を抽出して調査対象者とした。

3.4 回収数・回収率

調査票の有効回収数は1450であり、回収率は48.3%であった。

4 調査対象者の属性

調査対象者の基本属性について、以下に記述する。

4.1 性別

性別に関してみると、男性 43.3%、女性 56.6%となっている（図 1.1）。能美市の人口構成から男女比はほぼ 1 対 1 であり、抽出された調査対象者もほぼそのような構成になっていたので、男性の回収率がやや低いことがこのことからわかる。しかし、これは市民・国民を対象にした調査における一般的傾向でもある。

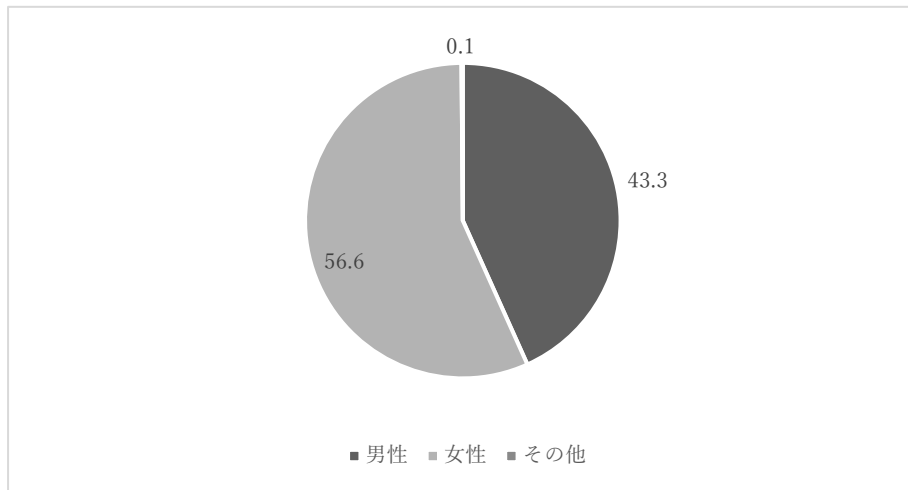


図 1.1 性別（N=1437，単位：%）

4.2 年齢

つぎに、年齢について確認する（図 1.2）。40 代から 70 代がそれぞれほぼ 2 割となっている。20 代が 5.7%と非常に少なくなっている。少子化の進行で、現在の 20 代はもはや人口も少なくなっているが、他の年齢層よりも回収率が格段に悪いことも影響している。若年層の回収率が低いことは、ランダム・サンプリングによる調査票調査での一般的傾向であるため、今回が必ずしも特殊であるわけではない。

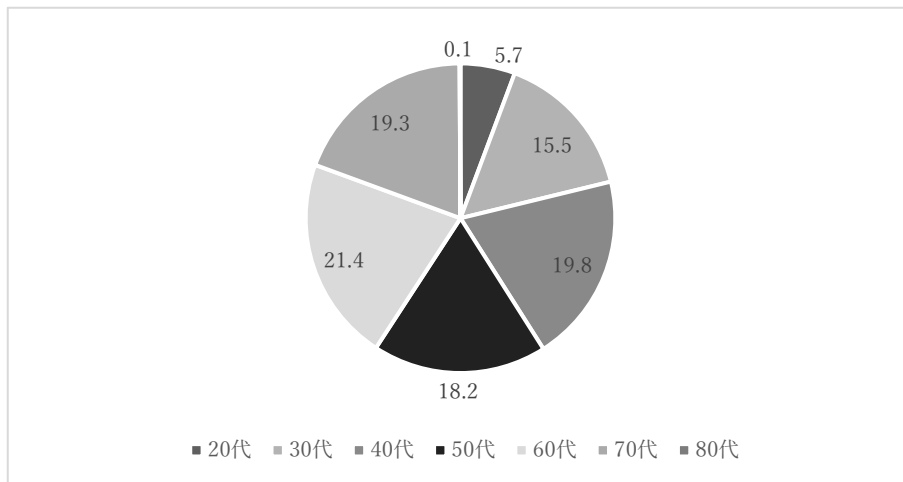


図 1.2 年齢（N=1431，単位：%）

4.3 婚姻状況

調査対象者の婚姻状況は図 1.3 のとおりである。既婚者が全体の 78%を占めている。未婚者は 13%であった。

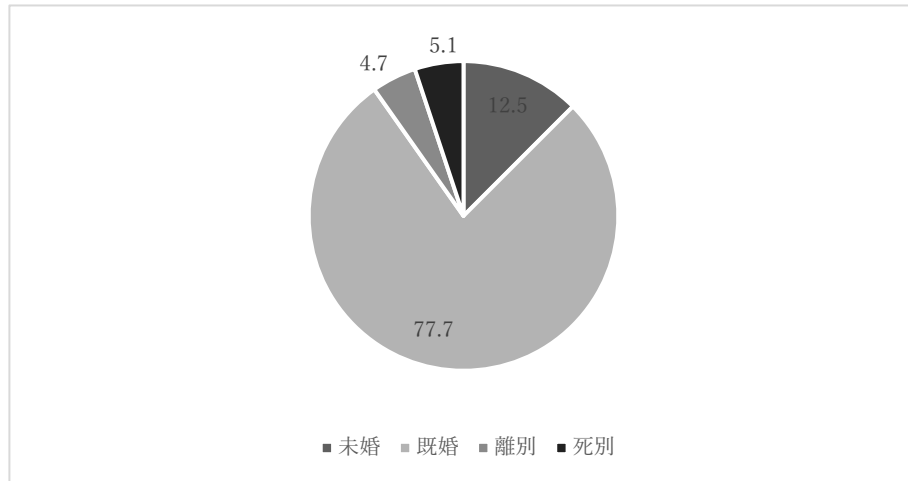


図 1.3 婚姻状況 (N=1432, 単位：%)

4.4 居住地域

能美市内に 8 つの校区があり、それにより居住地域を調べると、図 1.4 のようになっている。

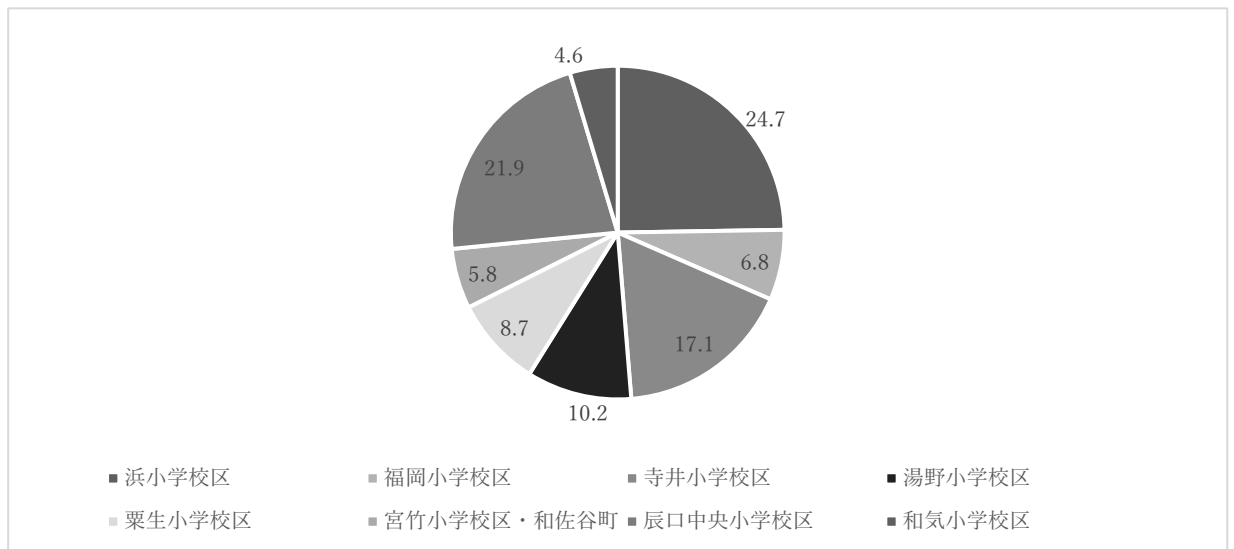


図 1.4 居住地域 (N=1423, 単位：%)

4.5 居住年数

図 1.5 によると、居住年数はある程度年齢と相関関係にあるが、50 年以上とする人

が 26%と最も多い。全体的に能美市に長く居住している市民が多く、中でも生まれてからずっと住み続けている人が多くを占めていると思われる。

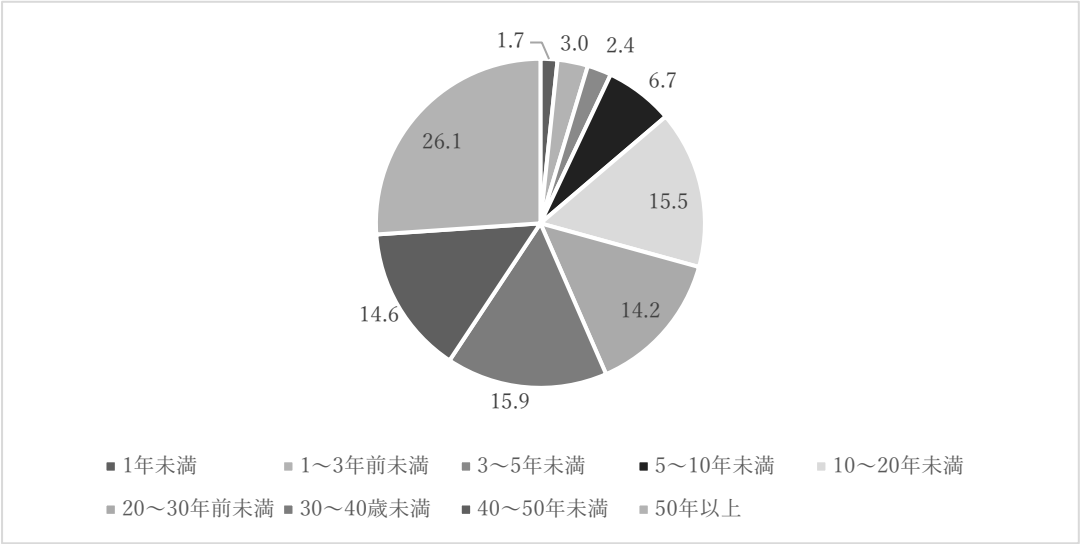


図 1.5 居住年数 (N=1438, 単位：%)

4.6 職業

つぎに、調査対象者の職業について確認する。

4.6.1 職業の有無

まず、職業の有無についてであるが、ほぼ 4 分の 3 の人が職業を持っていた(図 1.6)、無職である人は 4 分の 1 で、学生は 1.4%に過ぎなかった。

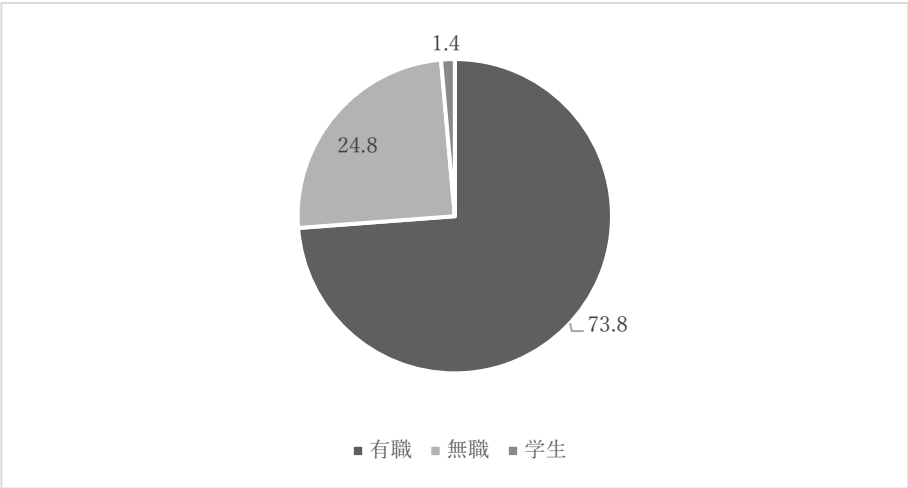


図 1.6 職業 (N=1424, 単位：%)

4.6.2 従業上の地位

有職の方々について、その従業場の地位についてさらに尋ねているが、正規雇用の方は54%であった（図 1.7）。それに対して、非正規雇用がほぼ3割であった。自営業者と家族従業者を合わせて1割弱であり、経営者は5%弱であった。

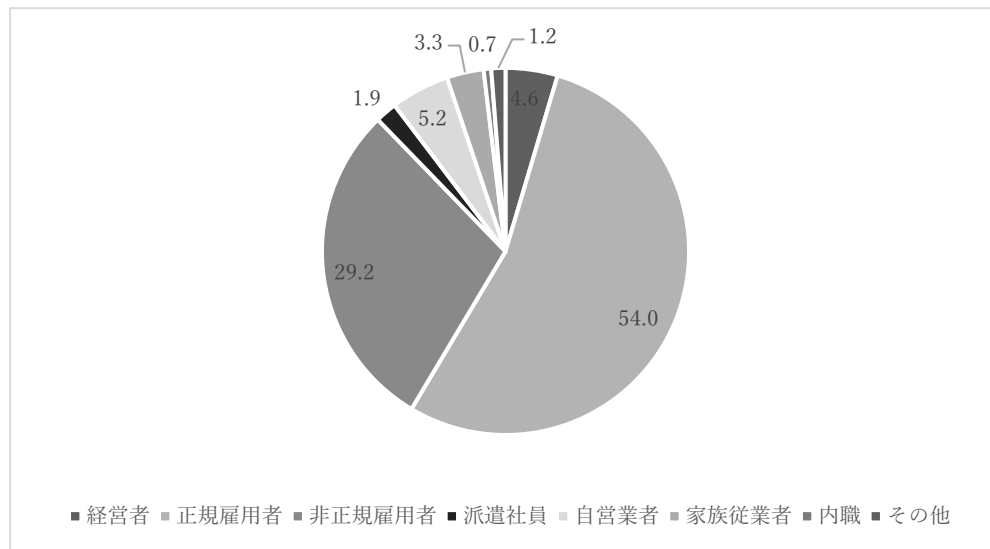


図 1.7 従業上の地位 (N=1045, 単位：%)

4.6.3 職種

この調査では職種についても質問しているが、図 1.8 のとおり、事務職の方が22%と最も多くなっている。製造業が20%、技術職が19.5%と、事務職に次いで多くなっている。

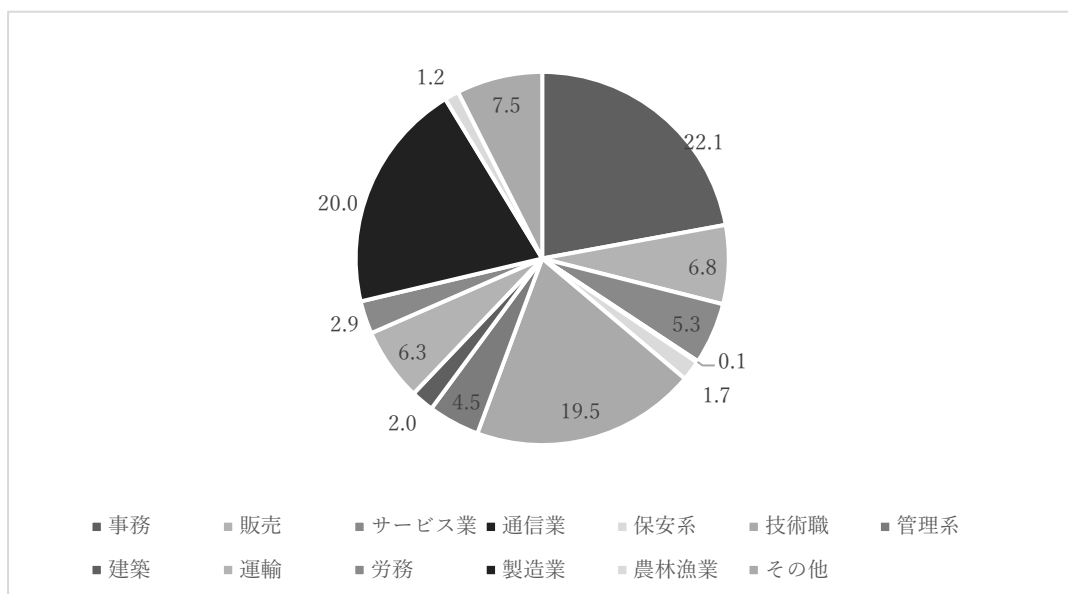


図 1.8 職種 (N=805, 単位：%)

4.6.4 通学先

通勤および通学先は図 1.9 の通りであり、能美市内が4割強、小松市が2割強、他に白山市と金沢市が1割ずつとなっている。

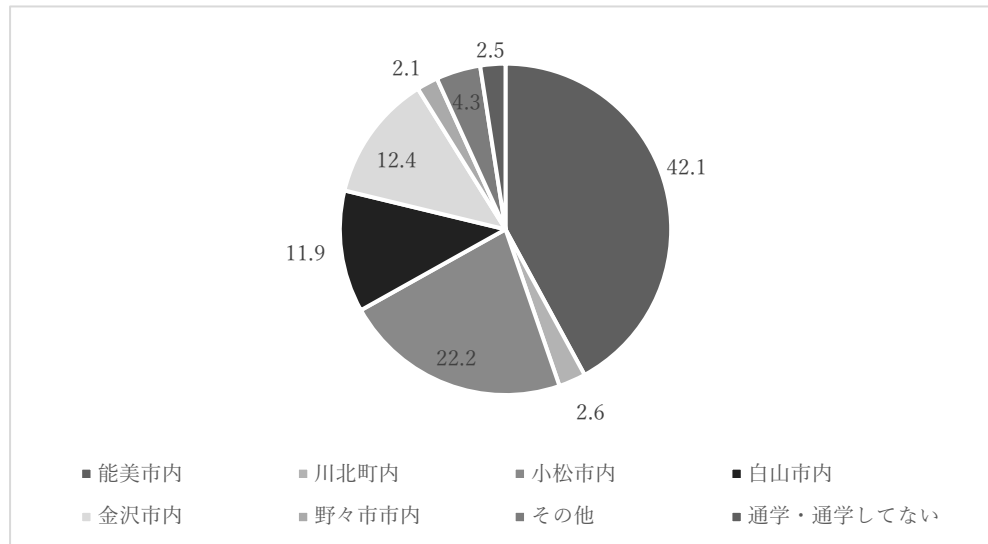


図 1.9 通勤・通学先 (N=1060, 単位：%)

4.7 学歴

図 1.10 によると、高校までの学歴の市民が約半数を占めている。大卒・大学院卒は4分の1弱である。日本の大学進学率は2000年代半ば頃に50%に到達し、以後微増ないし横這いであるが、市民の中の大卒層の比率は今後徐々に増えていくと予想される。

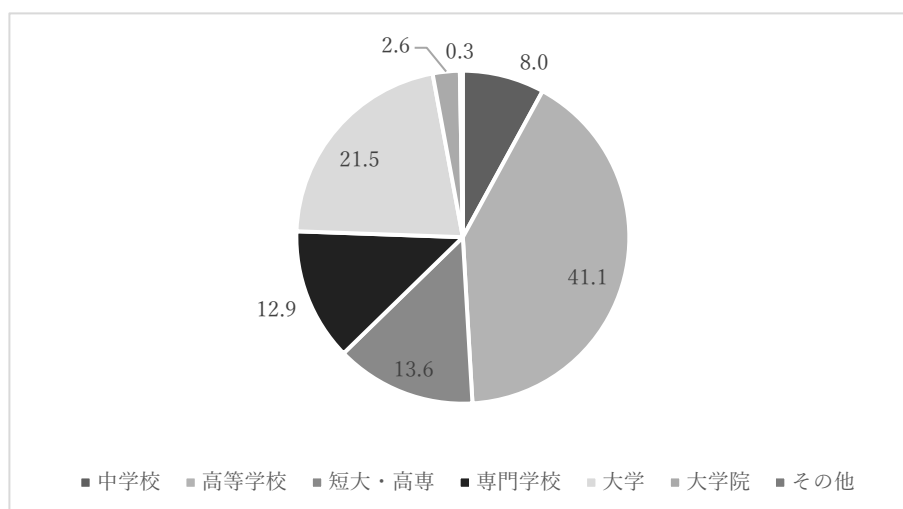


図 1.10 学歴 (N=1408, 単位：%)

4.8 世帯収入

図 1.11 から世帯収入についてみると、最も多いのは 250 万から 350 万未満の層で 12.9%となっている。250 万から 1000 万未満の層がほとんどを占めており、この所得分布のあり方は国全体の傾向とほぼ変わらないと考えられる。

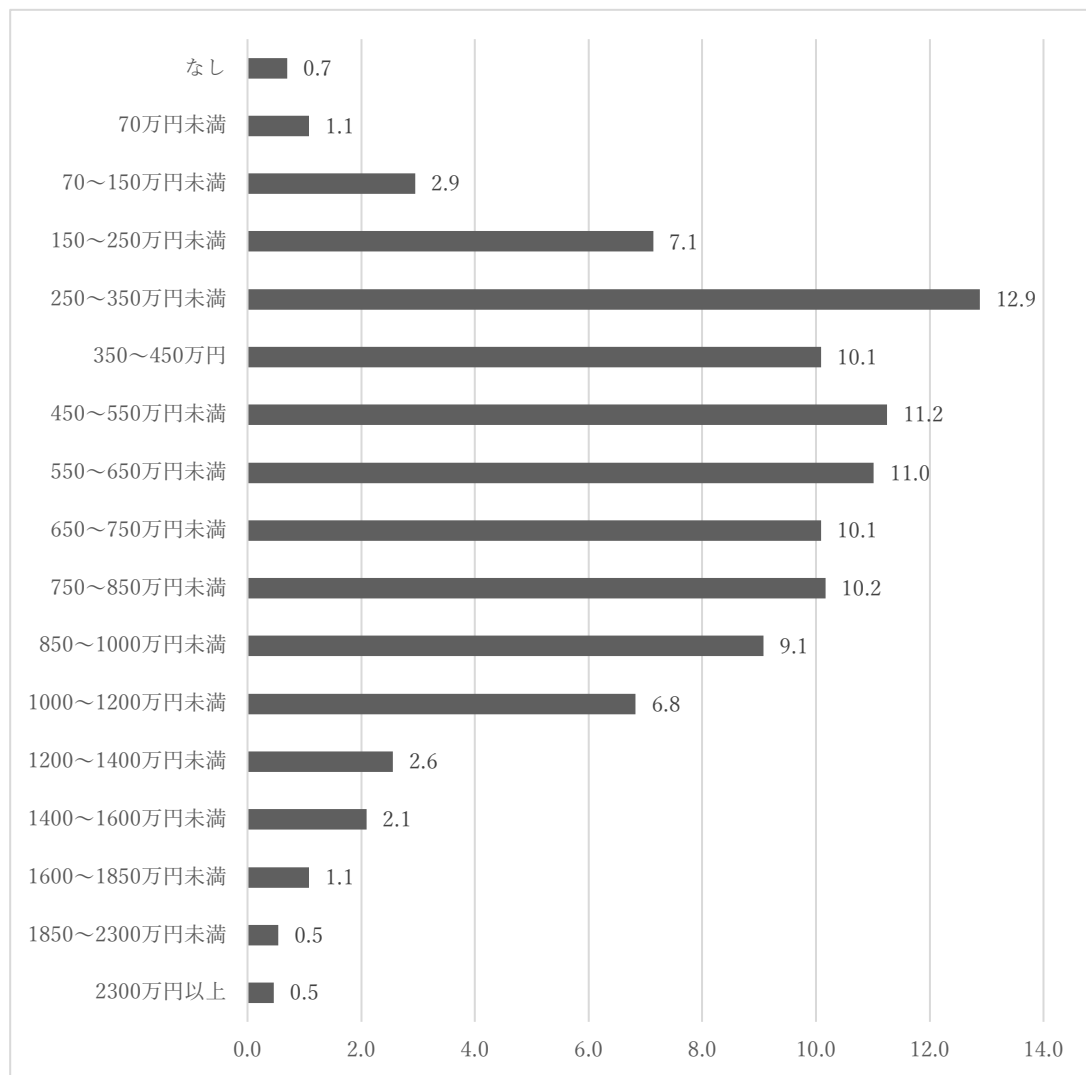


図 1.11 世帯収入 (N=1289, 単位：%)

4.9 暮らし向き

では、全体として、暮らし向きはいかがであろうか (図 1.12)。「良くも悪くもない」とする人がほぼ 4 割である。良い (「良い」+「どちらかとえば良い」) が 5 割弱である。悪いとする人は 1 割強である、全体的には能美市の市民の方々の暮らし向きは良いと自己評価する人が多いと言えるだろう。

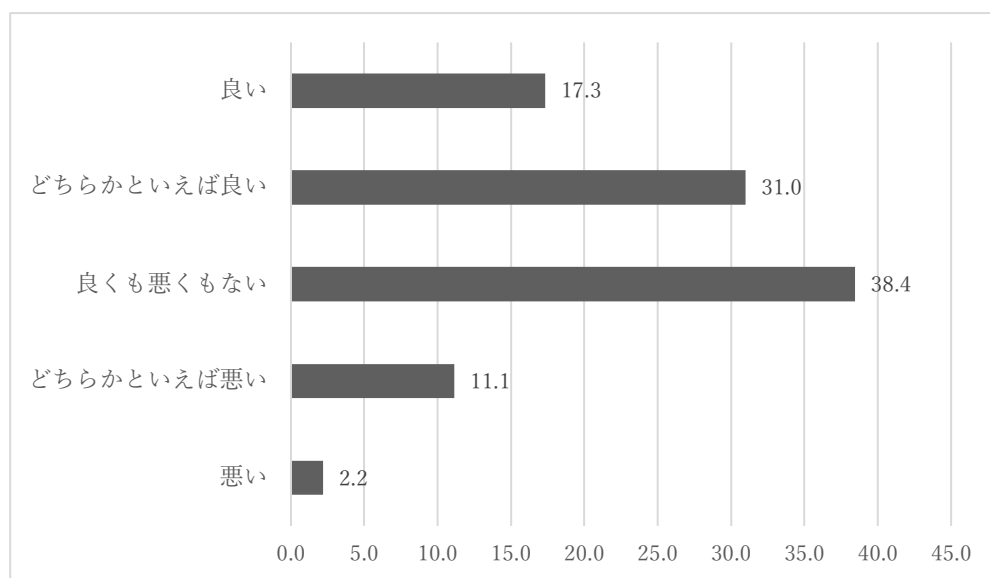


図 1.12 暮らし向き (N=1421, 単位：%)

第2章 能美市での居住についての分析

眞鍋 知子

1 はじめに

本章では、能美市での居住に関わる6つの質問への回答を分析する。具体的には、「能美市に住むことについてお聞きします」として、「問5 能美市は住みやすいか」、「問6 能美市に住むさいに重視したこと」、「問7 能美市での定住意志」、「問8 市外に転居したい理由」、「問9 能美市や住んでいる地域についての考え」、「問10 能美市に対する愛着心」を尋ねた。

2 住みやすさ

まず、「問5 あなたは、能美市を住みやすいところだと思いますか」という質問に対して、4分位で回答を求めたところ、「どちらかといえば住みやすい」とする回答が最も多く約半数を占め、「住みやすい」という回答との合計は9割を超えており、高い評価となっている(図2.1)。

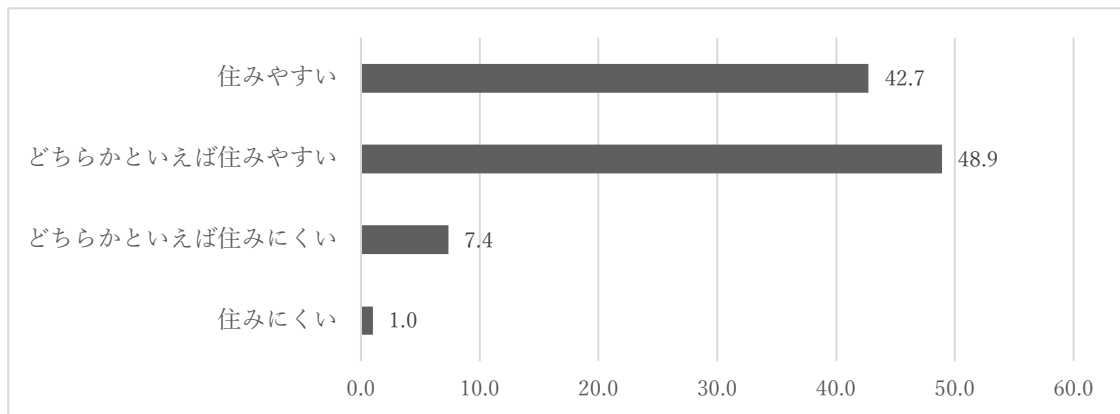


図2.1 能美市の住みやすさ (N=1427, 単位：%)

3 住むさいに重視したこと

次に、「問6 あなたが能美市に住むさいに、重視したことは何ですか」という質問に対して複数回答で答えてもらった(図2.2)。「以前から住んでいる」人が約4割と最も多かった。次に多かったのは、「自然災害が少ない」、「自然環境がよい」の順で約3割であった。災害のない環境の良さが評価されている。続いて、「就労、通勤、通学しやすい」は24.4%であった。

能美市の行政施策への評価としては、「子育て施策が充実している」18.8%、「福祉や医療の施策が充実している」16.3%、「定住促進補助金による支援制度がある」2.4%となった。34人が定住促進補助金による支援制度を利用していることになり、本施策に

は、一定の効果があることがわかる。

「その他」11.7%の具体的回答をみると、「結婚したから」という回答が多く、結婚相手の自宅のあった能美市に住むことになったケースが多いようだ。

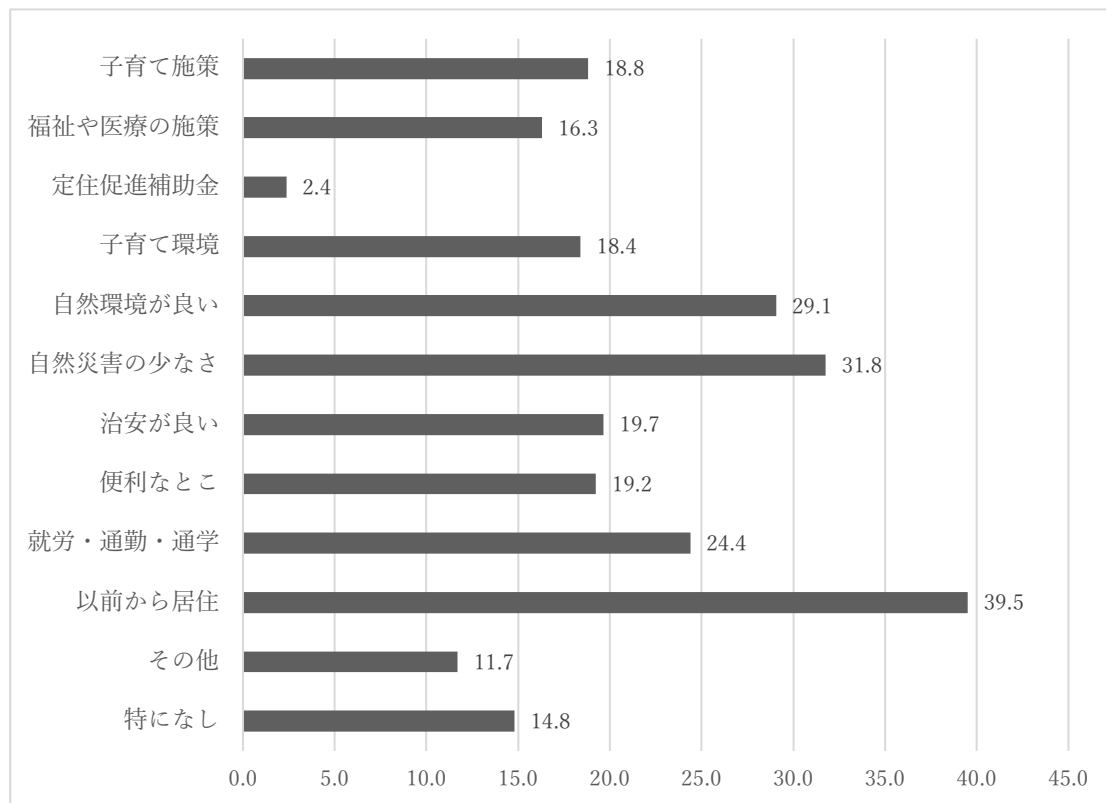


図 2.2 居住にあたって重視したこと（複数回答，単位：％）

4 定住意思

続いて、「問7 あなたは、これからも能美市に住み続けたいと思いますか」という質問に回答してもらった(図 2.3)。「ずっと住み続けたい」人が約6割と最も多かったが、「当分の間は住み続けたい」、「できれば市外に転居したい」、「市外に転居したい」という転居の可能性がある人は約4割存在する結果となった。

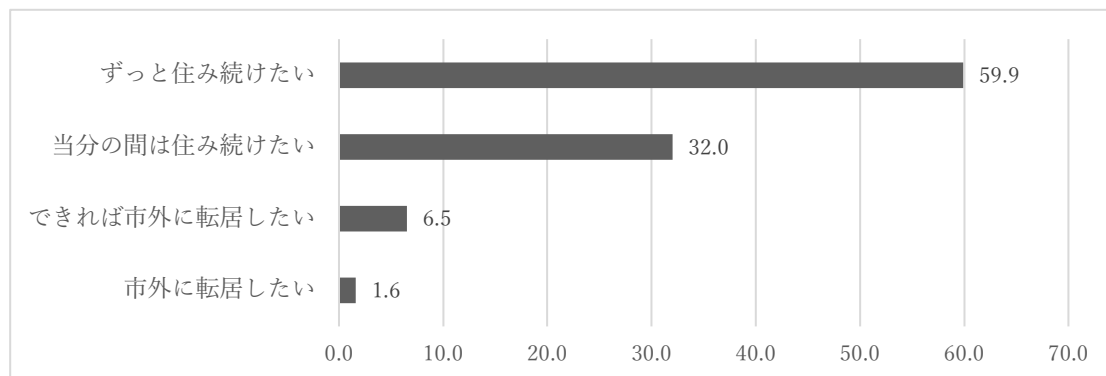


図 2.3 定住意志（N=1431，単位：％）

5 転居したい理由

さらに、問7で「できれば市外に転居したい」、「市外に転居したい」と回答した116人にのみ、「問8 市外に転居したい理由はつぎのうちのどれですか」と続けて尋ねている(図 2.4)。複数回答の結果は、「買い物に不便だから」36.3%、「余暇を過ごす場所が少ないから」25.2%、「通勤・通学に不便だから」22.2%の順となった。「地域になじめないから」という理由を選択した人が18.5%も存在し、地域コミュニティの醸成に課題のあることがわかる。「その他」20.0%の具体的回答をみると、「免許返納後の公共交通が不便」という理由が多くみられた。

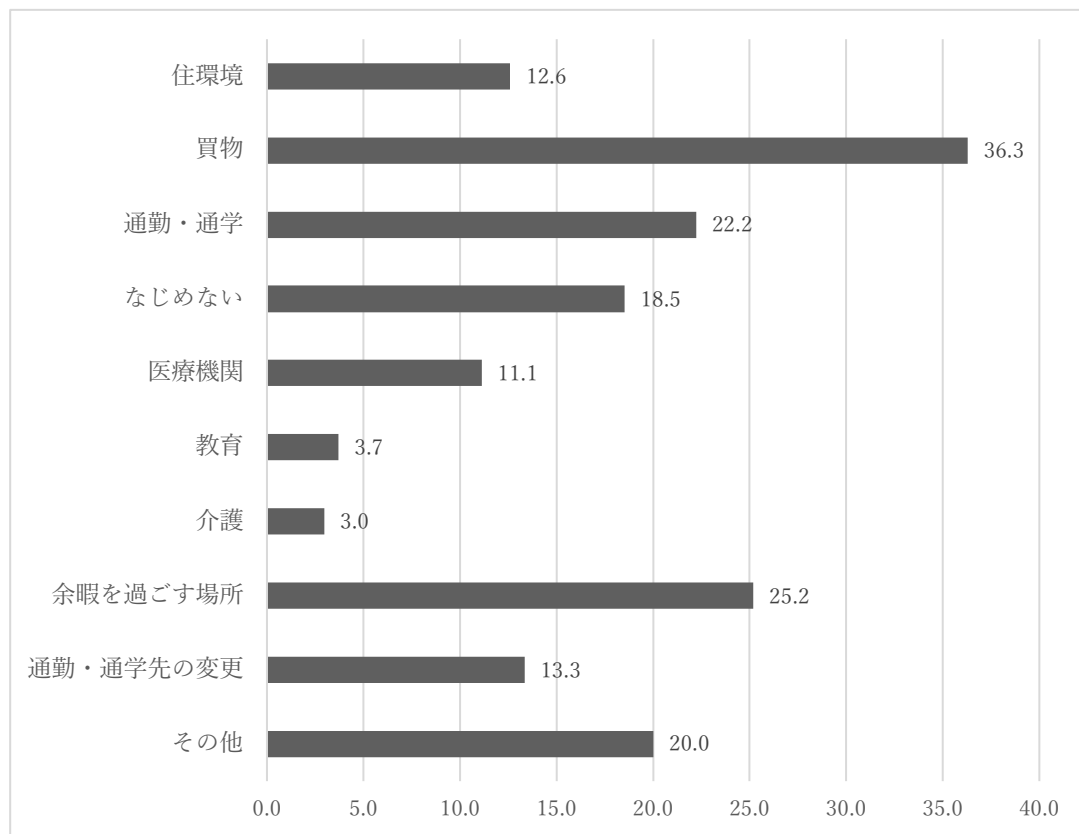


図 2.4 転居希望の理由 (複数回答, 単位: %)

6 生活環境

引き続き、「問9 あなたは、能美市やお住いの地域に関する以下のそれぞれについて、どのようにお考えですか」と8項目について7分位で尋ねた(図 2.5)。「よくあてはまる」、「かなりあてはまる」、「少しあてはまる」という肯定的な回答を合計すると、「f. 私の住む地域では、安全で安心した生活が送れている」が81.6%と突出して高い。

順に、「g. 能美市内の道路の整備状況はよい」61.8%、「h. 能美市では、文化芸術に触れる機会に恵まれている」59.5%、「d. 私の住む地域では、地域の福祉活動等により、助け合い・支え合いができています」50.5%、「c. 能美市は、買い物の利便性がよい

まちである」50.2%までが5割を超えており、これらの項目は半数以上の人に評価されている。

反対に、「まったくあてはまらない」、「ほとんどあてはまらない」、「あまりあてはまらない」という否定的な意見の合計は、高いものから「c. 能美市は、買い物の利便性がよいまちである」30.8%、「a. 能美市では、働く場を容易に見つけることができる」26.5%、「e. 能美市は、外国人住民の生活スタイルや文化を理解し、交流が進んでいる」17.4%という順であった。

買い物の利便性については、ひとつ前の問8でも転居の理由にあげられており、回答者からの評価が低い。この点については、ふだんは自家用車等で近隣市町まで出かけて買い物を済ませていても、能美市内での買い物施設に限定して回答すると利便性への評価が低くなってしまう可能性がある。たとえそうであっても、転居理由にもあるとおり、自分で車の運転ができなくなったときの不安が転居希望理由につながっているようである。

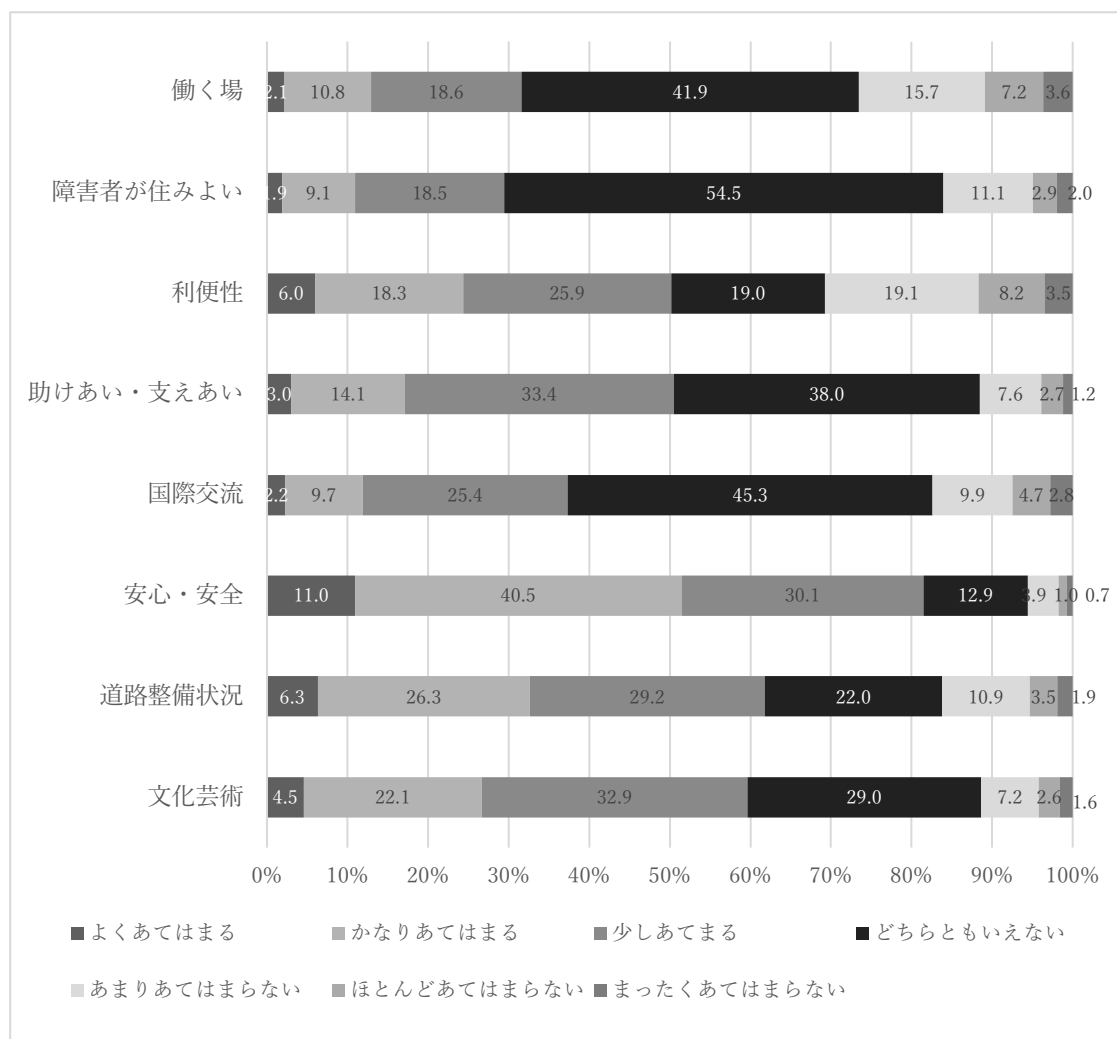


図 2.5 能美市の生活環境

7 能美市への愛着心

最後に、「問10 あなたは、能美市に対して愛着を感じますか」と4分位で尋ねた(図2.6)。その結果、「ある程度感じる」人が62.6%と最も多く、次いで「とても感じる」人が23.5%と、合計で86.1%の人が地域愛着心を持っており、高い数値といえる。

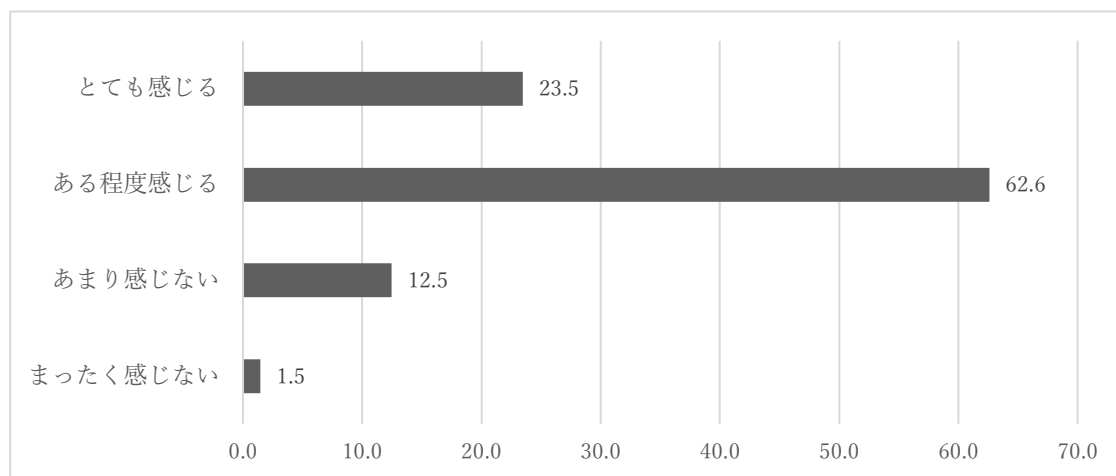


図 2.6 能美市への愛着心 (N=1427, 単位：%)

第3章 各種施策への期待水準と満足度

田邊 浩

1 能美市の政策

能美市は総合計画に盛り込まれた各種施策を評価するために、継続して市民満足度調査を実施してきた。しかし、「はじめに」でも触れたように、今回の調査では、能美市の各種施策に対する満足度について、より詳細なことがわかるように、質問の仕方を大きく変えている。では、今回の調査では、能美市の各種施策に関する市民の考えについて、どのようなことが明らかになっただろうか。調査結果から確認する。

2 各種施策への満足度

まず、能美市における各種施策に対する満足度を見てみよう。今回は、能美市の諸施策を10にまとめた形で尋ねているのが前回までと変わったところである。というのも、あまりにも個別詳細な施策について質問したとしても、実際にそれに回答することは容易ではないからである。そこで、「子育て」、「生活環境」、「産業振興」、「労働環境」、「観光施策」、「教育」、「防災」、「共生社会・相談支援」、「情報発信と知名度」、「行政・窓口サービス」という10の分野に整理し、市民に関わる主な施策として、市民の方々に「満足」から「まったく満足していない」までの5段階で尋ねた。その結果は図2.1の通りである。

「満足」と「まあ満足」を合わせて満足度が高いものとして、「子育て環境」が67%と非常に多くなっている。ついで、生活環境ほぼ6割となっている。この結果からすると、能美市の住みやすさに関わる施策には満足している市民が多いようである。他に多いものとして、産業と教育がほぼ4割となっており、そして、行政・窓口サービスは4割を超えている。一般的に、役所の窓口など、市民からの批判が向けられがちであるが、能美市においてはその対応に市民が満足していると言えるだろう。

逆に不満足（「まったく満足していない」＋「あまり満足していない」）に注目すると、相対的に満足していないものとして環境施策が挙げられる。次いで情報発信と知名度が多い。合併によって新しい名前のもとどの市となってから歴史が浅いということもあるだろうが、能美市の知名度が低く、知名度を上げてほしいという要望が市民にはあるようだ。その他には、労働と環境の施策が25%程度と低めであった。

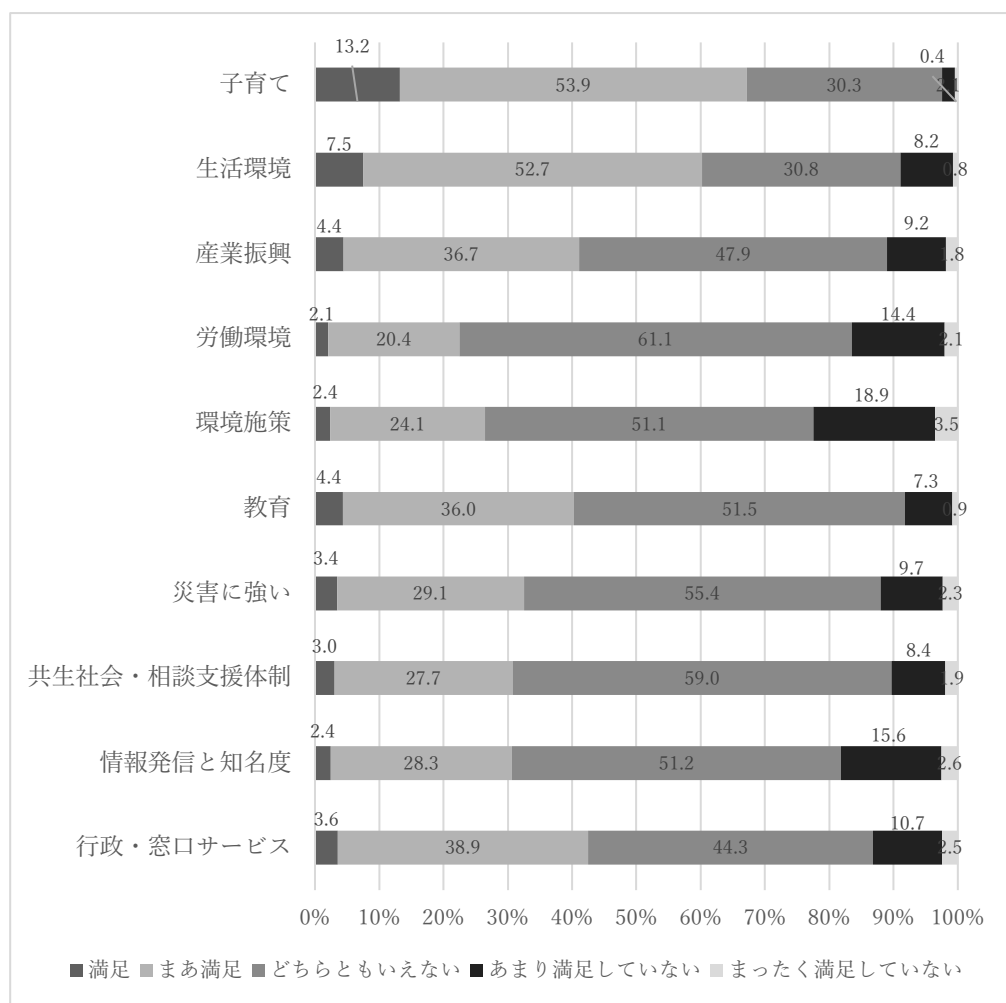


図 3.1 能美市の施策に関する満足度（単位：％）

3 能美市の施策に対する期待水準

今回の調査では、先に確認した各種施策への満足度に対して、各種施策への期待水準を尋ねている。すなわち、「現在の能美市の取り組みは、あなたが期待する水準と比べると実際の水準はどのようにお考えですか」と質問した。どの施策に関しても、同じぐらいとするものが60%前後と多数を占めている。上回る（「大きく上回る」＋「やや上回る」）が比較的多いものとして、子育てと生活環境が挙げられる。これらは満足度も高く、しかも期待を上回っていると高く評価されているということになる。

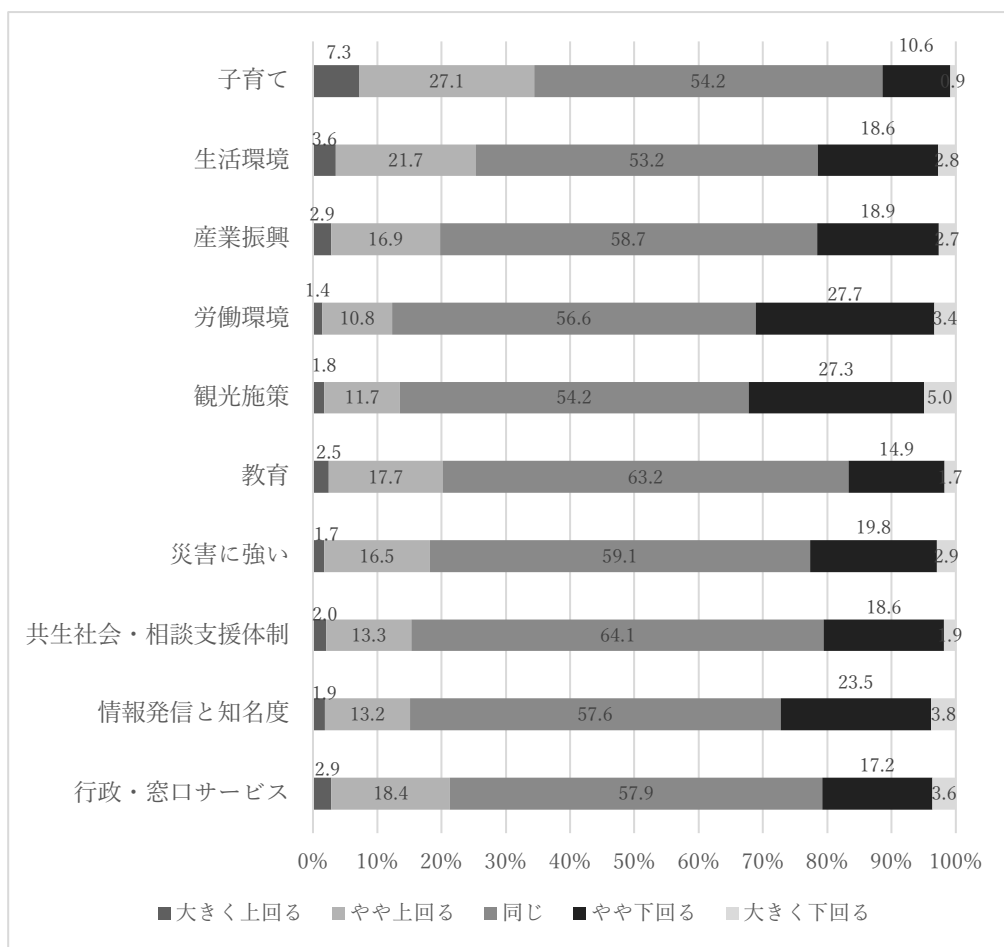


図 3.2 能美市の施策に関する期待水準（単位：％）

4 能美市の施策に対する全体的満足度

では、能美市の施策全体に対して、市民はどのように考えているだろうか。「能美市の取り組み全般について、あなたはどの程度満足していますか」と質問した。調査結

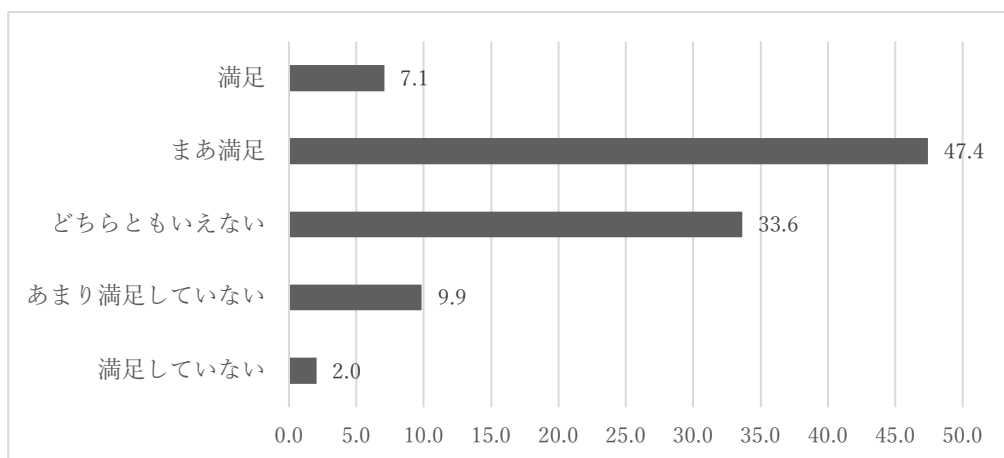


図 3.3 能美市の施策に関する満足度（N=1430，単位：％）

果は図 3.3 の通りであるが、「どちらともいえない」という肯定でも否定でもない考えを持つ人が3割いるが、満足していない人（「あまり満足していない」＋「満足していない」）はほぼ1割程度であり、55%の方々は満足と回答している。能美市の市民は能美市の施策に全体的には満足しているということがこの結果から言えそうである。

では、この施策に対する満足度について、もう少し分析を加えよう。これを性別とのクロス表で見てみる（表 3.1）。すると、男性よりも女性の方が満足している傾向が見られる。

表 3.1 性別施策満足度（問 13×問 1）

	満足	まあ満足	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	満足してい ない	計（人数）
男性	6.5%	46.2	31.8	13.1	2.4	100.0(619)
女性	7.4	48.3	35.4	7.3	1.6	100.0(797)

($\chi^2=15.149$ d.f.=4 p=0.004)

さらに、年齢層別で見てみよう。表 3.2 から明らかであるが、若年層の方が満足しており、高年齢層の方が満足していないという傾向が見られる。

表 3.2 年齢層別施策満足度（問 13×問 2）

	満足	まあ満足	どちらとも 言えない	あまり満足 していない	満足してい ない	計（人数）
20代	11.1%	50.6	29.6	7.4	1.2	100.0(81)
30代	7.7	55.0	26.8	8.2	2.3	100.0(220)
40代	10.3	47.3	30.6	10.7	1.1	100.0(281)
50代	3.5	45.9	40.5	8.5	1.5	100.0(259)
60代	5.3	41.2	38.9	11.6	3.0	100.0(301)
70代	7.4	49.1	31.0	10.0	2.6	100.0(271)

($\chi^2=35.128$ d.f.=20 p=0.019)

5 能美市の施策に対する評価

今回の調査では、能美市の施策に対する全体的な評価も尋ねている。すなわち、施策の実際について、それが市民の期待水準からしてどのように評価できるのかというものである。図 3.4 を見ると、もっとも多いのが期待と実際が同じぐらいとするもので56%を数えている。実際が期待を下回っているとする人（「下回る」＋「やや下回る」）が約28%であり、上回っているとする人（「上回る」＋「やや上回る」）は15%程度である。

以上の結果のみからすると、能美市の施策は市民の期待水準を下回っていると評価す

る人が多いように思われるかもしれない。けれども、先に見た満足では、市民は能美市の施策に対して不満を持つ人は多くはなく、むしろ全体的に満足している人の方が圧倒的に多かった。この結果は一見矛盾しているように思われるかもしれないが、必ずしもそうではない。経営学者のハーバート・サイモンは最適化に対して満足化仮説を提唱したが、満足ではあっても、より高い水準があれば、それを期待することはあるだろう。そうしたことを反映した結果だと考えられる。

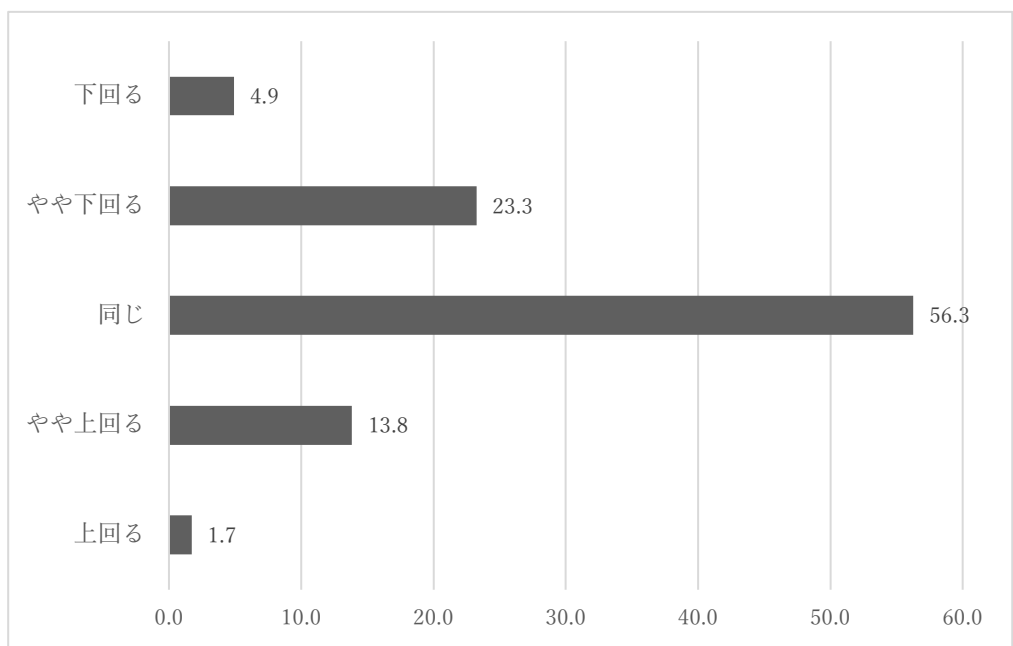


図 3.4 能美市の施策に対する評価 (N=1402, 単位：%)

これについても、クロス表で分析を進めよう。性別とのクロス表(表 3.3)を見ると、男性の方が、下回ると評価したり、上回ると評価したりする人が多い。女性は男性よりも、期待と実際が同じぐらいとする人が多い。

表 3.3 性別施策評価 (問 14×問 1)

	下回る	やや下回る	同じ	やや上回る	上回る	計 (人数)
男性	6.6%	23.8	52.0	15.2	2.5	100.0(606)
女性	3.3	22.9	60.0	12.7	1.2	100.0(782)

($\chi^2=16.721$ d.f.=4 p=0.002)

さらに、年齢層別で見てみよう。表 3.4 から明らかであるが、若年層の方が期待を上回っていると評価しており、高年齢層の人びとの方が実際は期待水準を下回っていると評価する傾向があるようだ。

表 3.4 年齢層別施策評価（問 14×問 2）

	下回る	やや下回る	同じ	やや上回る	上回る	計（人数）
20 代	5.2%	10.4	68.8	15.6	0.0	100.0(77)
30 代	4.6	25.6	47.0	19.2	3.7	100.0(219)
40 代	3.9	18.9	56.8	17.9	2.5	100.0(280)
50 代	3.1	23.2	58.7	14.2	0.8	100.0(254)
60 代	6.1	30.7	53.7	7.4	2.0	100.0(296)
70 代	6.5	21.2	60.8	11.2	0.4	100.0(260)

($\chi^2=56.669$ d.f.=20 p=0.000)

高年齢層の方が評価が厳しいのはなぜだろうか。これについては、さらに確認する必要がある。一つの仮説を提示しておく、高年齢層の人びとの方が市の施策や行政サービスに敏感であるがゆえに評価が厳しくなるということがありうるのではないだろうか。これは、また別の分析によって検証しなければならないだろう。今後の課題としてい。

第4章 産業振興、商業施設、公共施設

田邊 浩

1 はじめに

本章では、産業振興や商業施設、そして公共施設に関する施策に焦点をあてて調査結果の分析を行う。

2 産業振興

市民の方々は、能美市の産業振興について、どのような考えを持っているだろうか。ここでは、「商工業・観光・農林業の分野について、今後どのような取り組みに力を入れたほうがよいと思いますか」と尋ねている。

結果を示す図4.1を見ると、商業が最も多くなっており44.6%を数えている。ついで労働者施策の推進であり、ほぼ3割である。その他に、工業、そして観光と続いており、農業も18%となっている。すでに見たように、能美市においては技術職や製造業に従事している人が多いが、工業に劣らず、観光や農業への期待も高いと言えそうである。

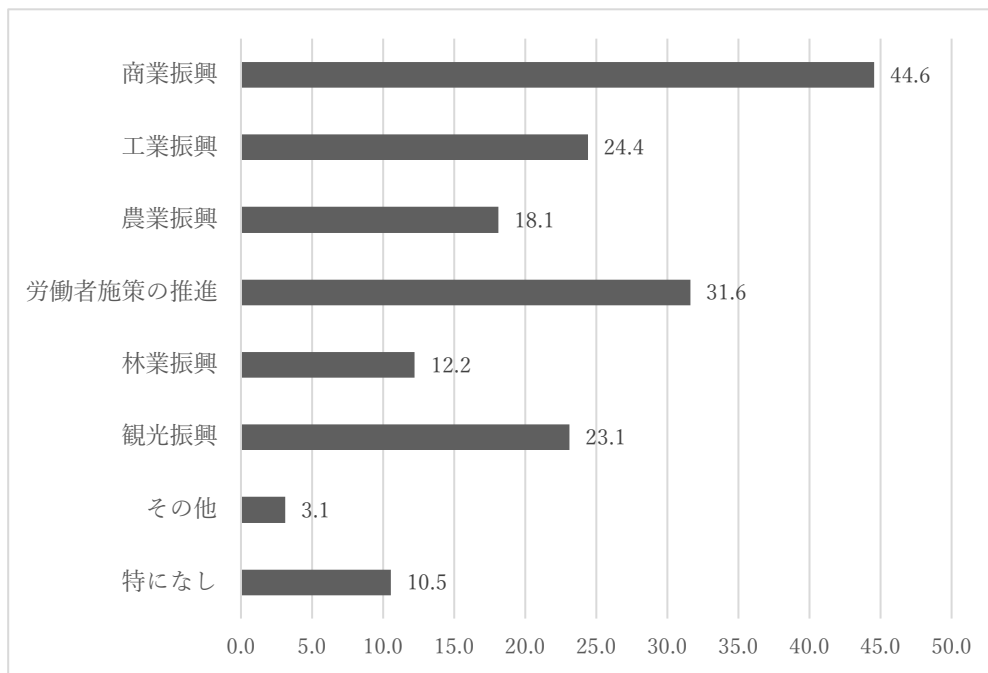


図 4.1 産業振興（複数回答，単位：％）

3 商業施設

多くの人が利便性のよい街に住みたいと考えており、その点で商業施設が充実していることは欠かせない。では、現在の能美市においてはどのような商業施設が望まれているだろうか。調査結果を確認すると、もっとも高くなっているのは「レストラン・食堂」

で 24.5%となっている。次いで、「大型商業施設」、そして「ホームセンター・家電量販店」も 2 割程度あがっている。その他には、「道の駅」、「スーパーマーケット」がそれぞれ 17%程度であり、食料品等の日常的な買い物をする場所の必要性を示していると考えられる。他には、全般的に「ファストフード店」、「カフェ」など、飲食店が多い。他方で、レジャー施設は能美市においてそれほど欲しいと感じている人は多くないということが明らかとなった。もちろん、それらは市外に出かけることで事足りるということを示しているとも考えられる。

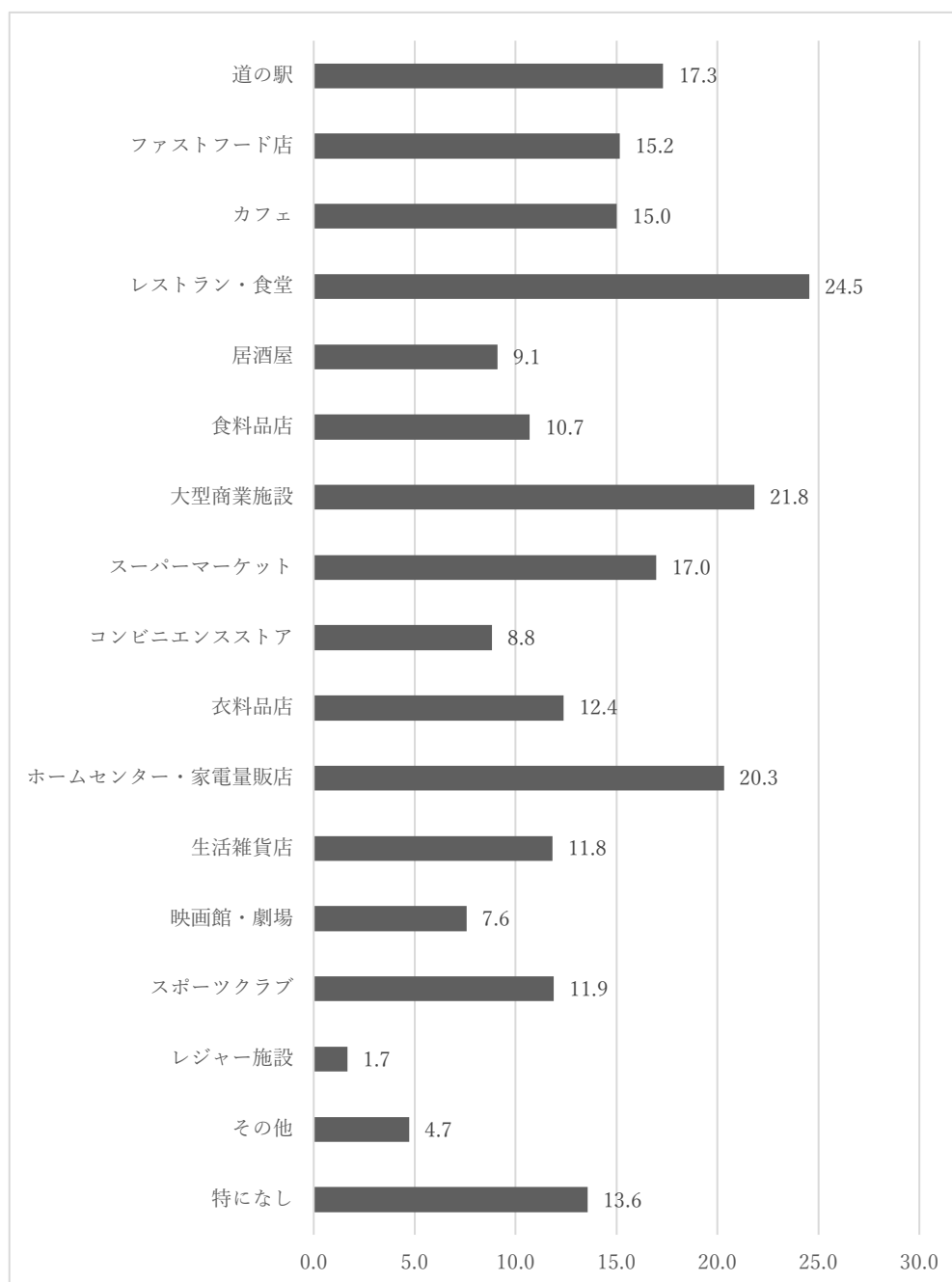


図 4.2 商業施設（複数回答，単位：%）

4 公共施設

公共施設に関する市民の要望は図 4.3 の通りである。最も多く、30%を越えているのが「病院・診療所」である。次いで、「高齢者福祉施設」も 25%と多くなっており、安心して暮らせるという医療・福祉的なものの充実が望まれていることがわかる。また「公園・緑地」も 29%とかなり多くなっている。屋内児童遊戯施設も 16%を超えており、多いほうである。それ以外には、「図書館」「美術館・博物館」という文化施設がそれぞれ1割強となっている。これらはいずれも、子育てする環境ということと関連するかもしれない。先に見たように、能美市では子育て施策に関して市民の方々の満足度が高かったが、子育てをするにあたって恵まれた環境が重視されていると言えそうである。

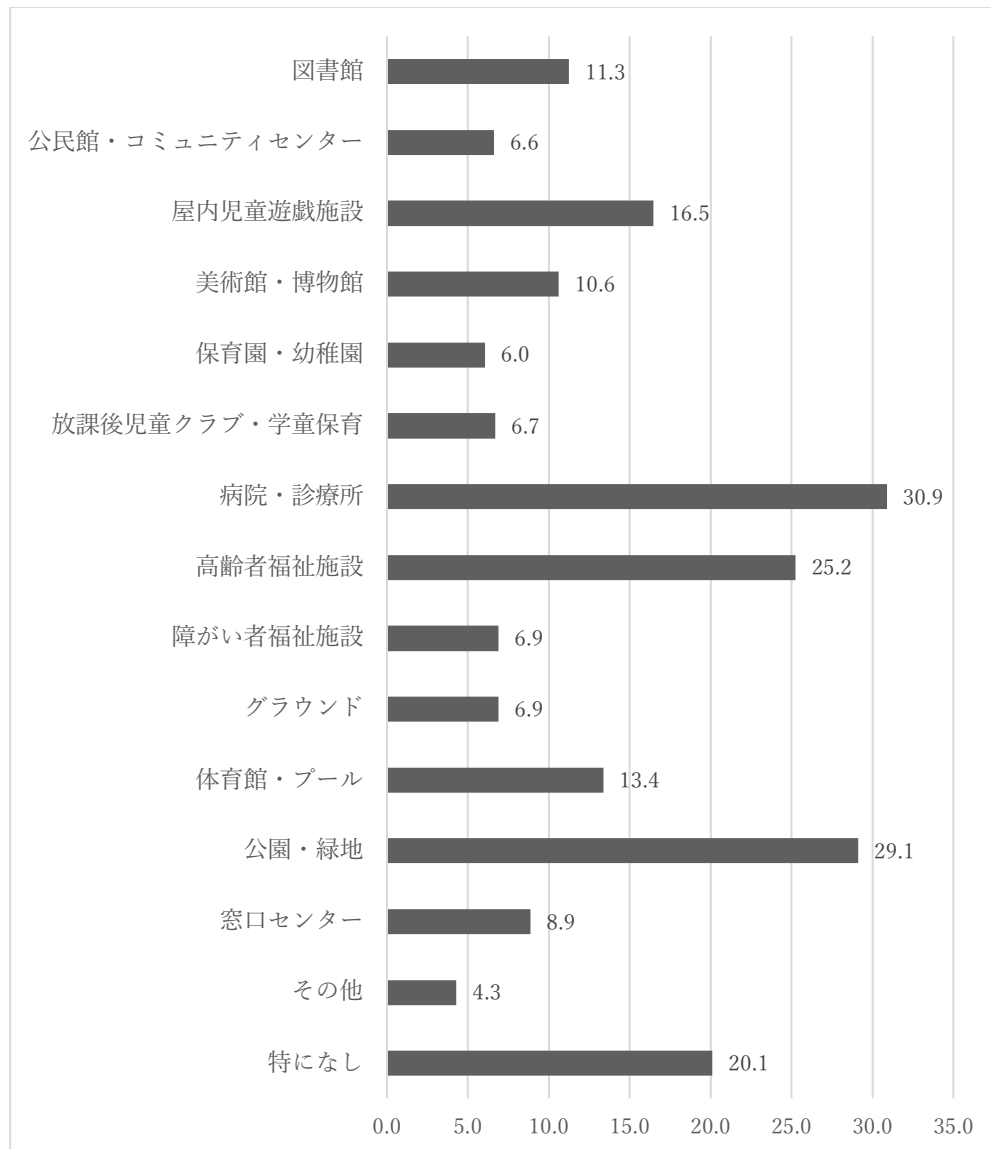


図 4.3 公共施設（複数回答，単位：%）

第5章 子育て環境についての分析

眞鍋 知子

1 はじめに

本章では、能美市における地域の子育て環境に関わる4つの質問への回答を分析する。第2章の居住に関する分析においても、子育て環境についての市民の評価は高かった。その内容を本章でさらに深掘りしていく。

2 安心して子育てできる地域

はじめに、「問18 あなたは、能美市が安心して子どもを産み育てることができる地域であると思いますか」という問いに4分位で回答してもらった(図5.1)。その結果、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と肯定的に回答した人は合計で9割を超えている。やはり、子育て環境への市民の評価は高い。

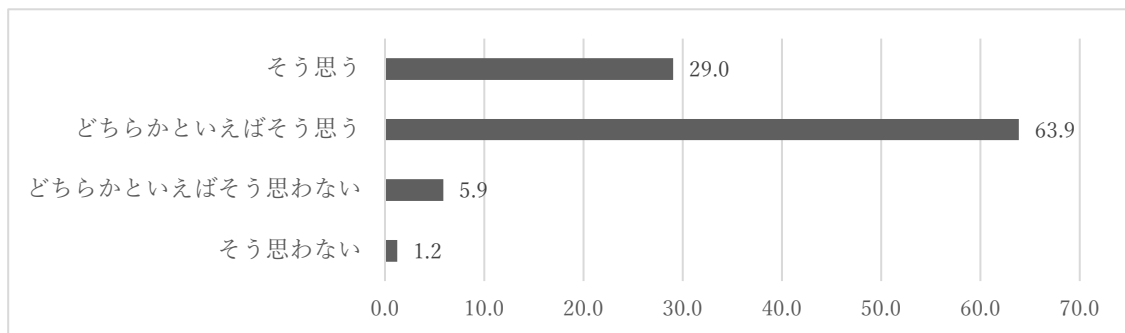


図5.1 安心して子ども産み育てられる地域 (N=1398, 単位：%)

次に、「問19 あなたは、地域で子どもを育てる取り組み・活動（見守り活動・スポーツ活動・子ども会活動など）が活発であると思いますか」という問いに4分位で回答してもらった(図5.2)。その結果、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」人は合計で85.0%であった。こちらも高い評価を得られている。

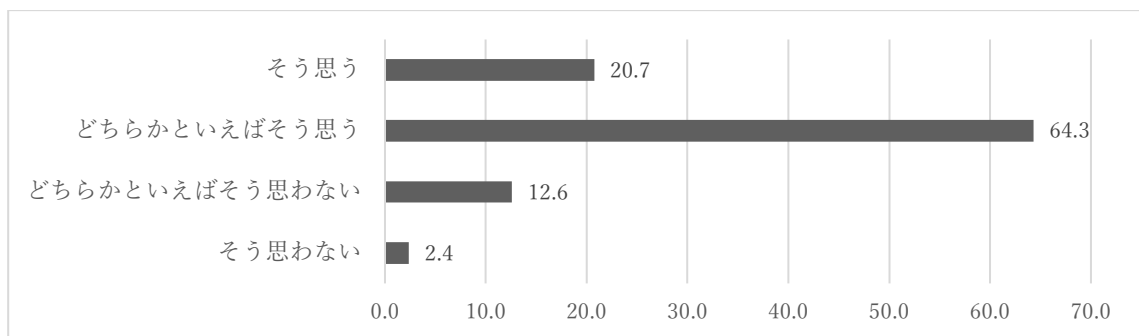


図5.2 地域の子育て活動の活発さ (N=1398, 単位：%)

3 子育てへの地域の支援

「問20 子育てをする人にとって、地域の支えは重要だと思いますか」という問いに、「とても重要である」、「やや重要である」と回答した人は合計で9割を超えている。

「とても重要である」と回答した人だけでも6割を超えており、子育てのための地域支援の重要性が市民に認識されている(図5.3)。

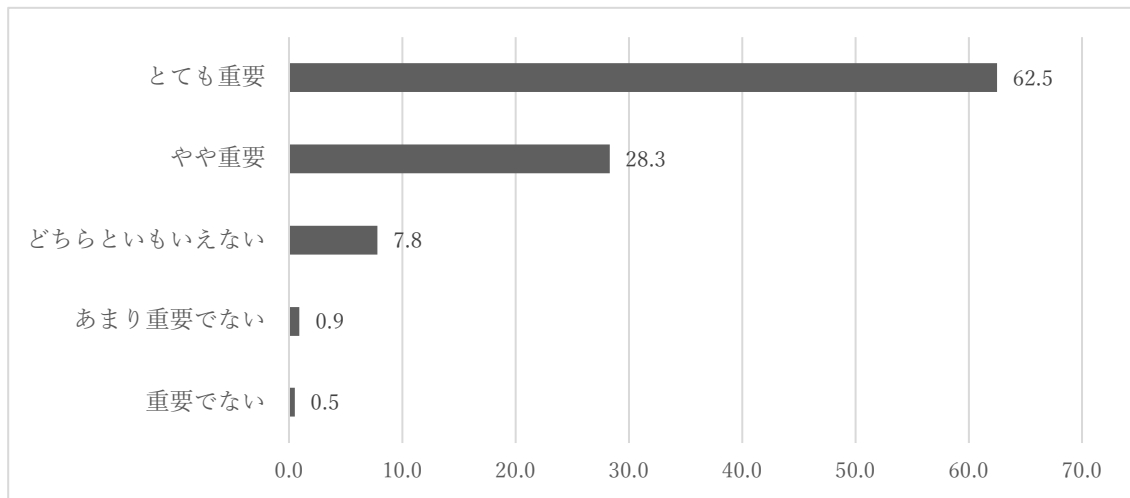


図5.3 子育てにおける地域支援の重要性 (N=1410, 単位: %)

そのように重要性が認識されている地域での子育て支援のうち具体的にはどのようなことが重要か、さらに質問した。「問21 あなたは、地域で子育てを支えるために、以下にあげることにについてどの程度重要だと思いますか」という問いで、13項目について5分位で尋ねた(図5.4)。

「とても重要である」、「ある程度重要である」という肯定的な回答を合計すると、「1. 子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」88.9%、「a. 子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」86.7%、「c. 子育てに関する情報を提供する人や場があること」83.9%、「b. 子育てをする親同士で話しができる仲間づくりの場があること」81.4%、「f. 不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」81.3%、「h. 子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」80.0%の順で8割を超えた。

一方で、「まったく重要ではない」、「あまり重要ではない」の合計が最も高かったのは「d. PTAなどの教育団体」11.5%で、この項目のみ合計が1割を超えていた。とはいえ、とても低い割合であり、地域で子育てを支えるためには、あらゆる手立てが講じられるべきであると市民に理解されているとみることができる。

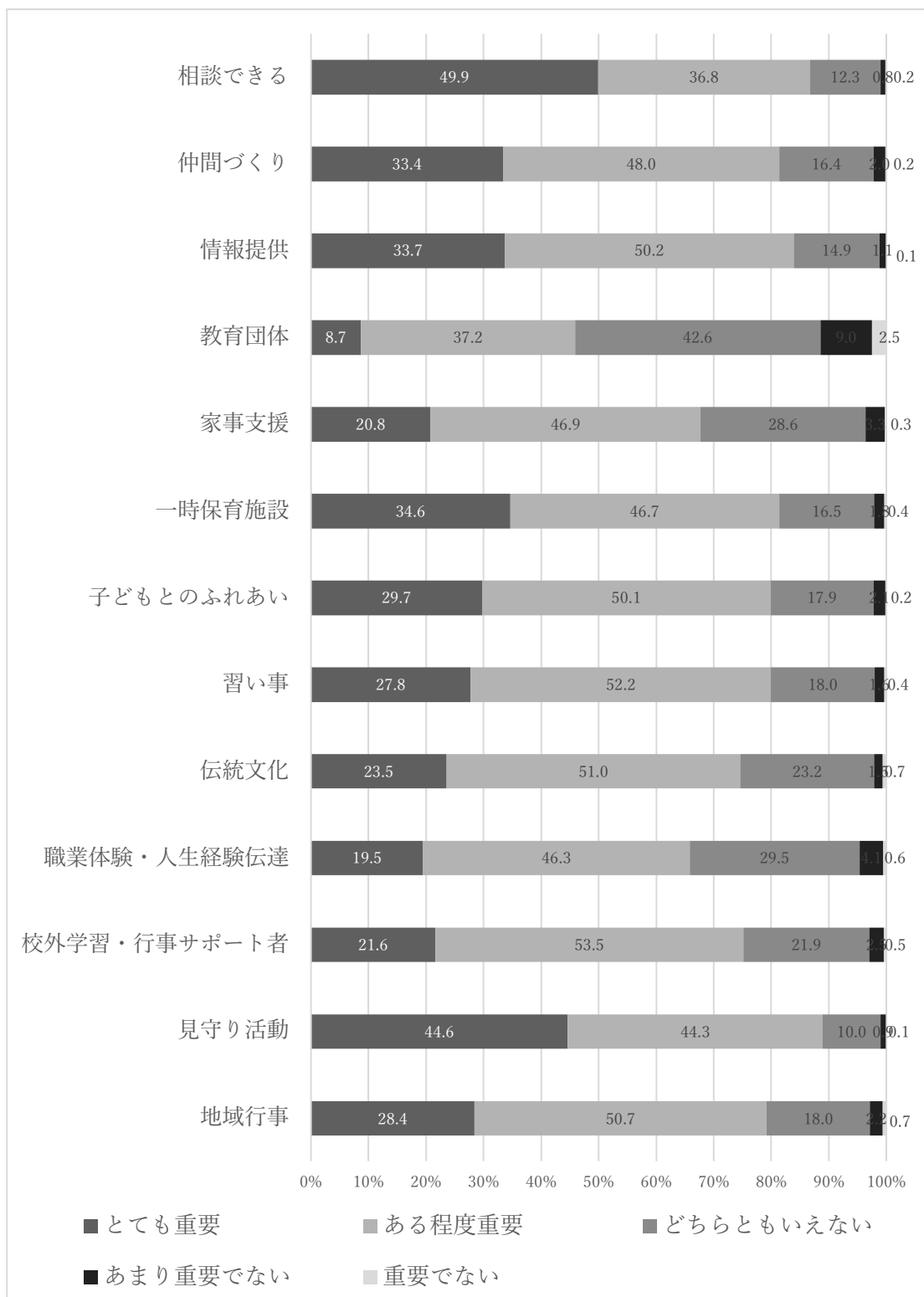


図5.4 地域の子育て支援項目の重要度

第6章 健康と福祉

田邊 浩

1 はじめに

人が生きていくうえで、健康で安心して暮らせるということは、幸福の重要な条件である。本章では、調査対象者となった市民の方々の健康や、望まれる福祉のあり方について、調査結果を取り上げる。

2 市民の健康状態

まず、調査対象者となった市民の方々の健康状態を確認したい。本調査では、直接的に、「健康状態はいかがか」と質問している。その結果が図 6.1 であるが、健康状態が良好（「よい」＋「まあよい」）の方が 55% 程度である。「ふつう」とする方も 33% であり、「よくない」とする方は 1 割ほどにしか過ぎない。自己評価ではあるが、能美市民は健康状態がよい方が多いと言えるだろう。

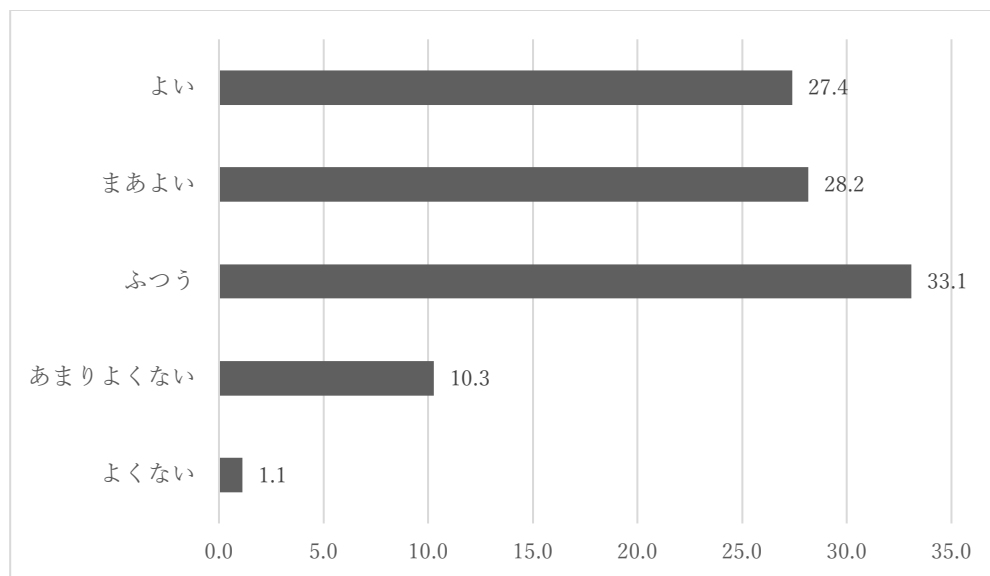


図 6.1 健康状態 (N=1442, 単位：%)

3 健康で安心できる暮らし

つぎに、より具体的に、日々健康で安心して暮らすことができているのかを質問している。その結果が図 6.2 である。それぞれの質問項目について、「よくあてはまる」から「少しあてはまる」までを合わせて見てみると、最も多くなっているのが「無理なく日常を過ごしている」であり、8 割弱に及んでいる。ついで、「困った時に相談できる人がいる」で 7 割である。さらに「精神的な不安はない」や「社会に自分の居場所と役割

がある」も6割を超えている。人々の不安と孤立が語られる現代社会ではあるが、能美市の多くの市民の方々は、精神的に健康な状態にあり、安心できる暮らしをしていることが明らかになった。

他方で、「いざというときに、社会の仕組みで支えてくれると思う」についてはそう考えるのは3割強にすぎず、他の質問項目に比べると肯定的に考えている人は非常に少ない。この質問項目は福祉・社会保障を意味しているものであり、能美市民では日本の福祉・社会保障に不安を感じている人も多いことがわかる。

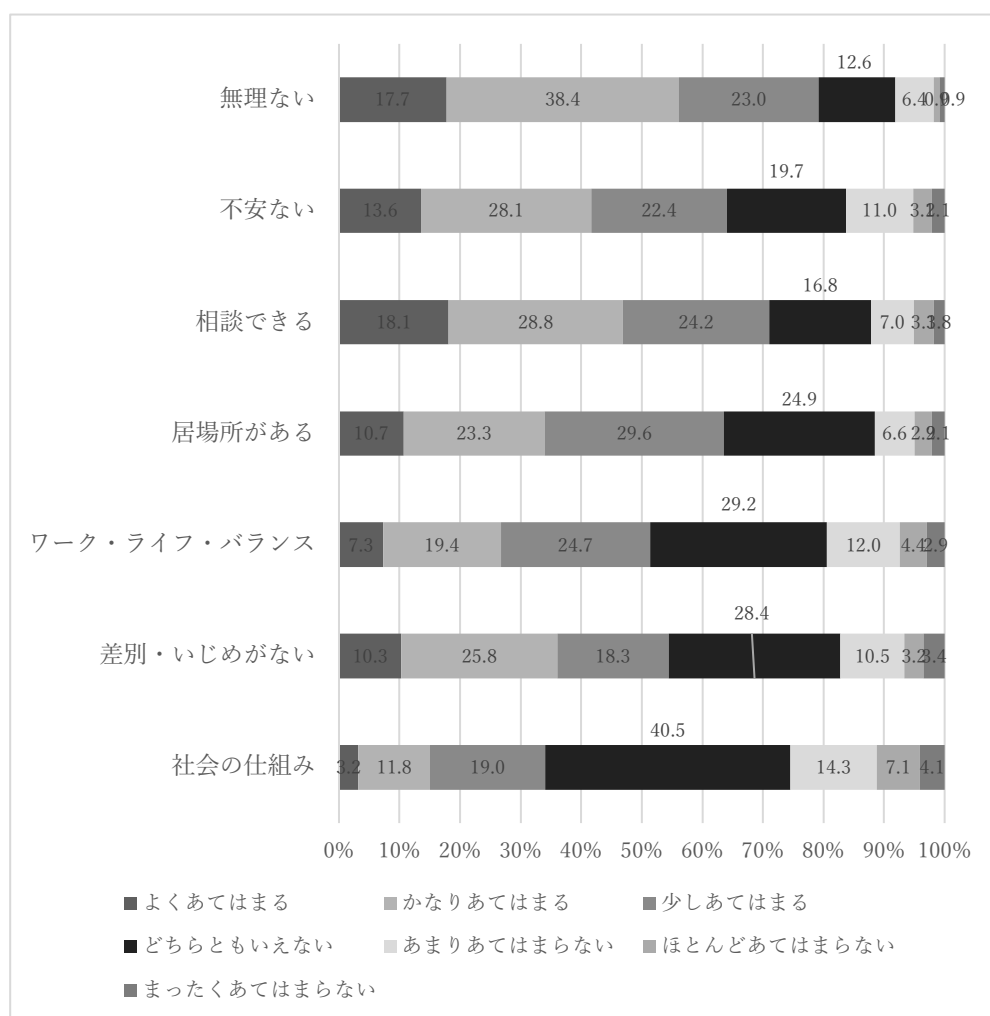


図 6.2 健康で安心できる暮らしの自己評価（単位：％）

4 頼れる人

先にも触れたが、国際比較の調査でも、日本人は親しく付き合っている人や困った時に頼れる人がいないという人が他の国以上に多く、そうした社会的に孤立した人が増えているとも言われる。人々が他者とのつながりをどれだけ保有しているかという社会関

係資本にも注目されるようになってきているが、その社会関係資本を測定する際にも重視される、頼れる人がいるかどうかをこの調査でも尋ねている。その結果が図 6.3 である。

頼りになるとする人が最も多いのは、もちろん家族であり、9 割を超えている。ついで親戚 63%、友人 62%と続いている。実のところ、全国的には、親戚の関係も縮小し、弱くなってきていると言われる。それからすると、能美市民では、親戚が頼れるとする人がまだまだ多いようである。

他方で、職場の同僚・上司が頼りになるという人は 33%と、他のものに比べてかなり少なくなっている。日本は家族的経営などが言われて、職場での付き合いが強いとされてきたが、それも急速に縮小しているようであり、能美市民でもその傾向は変わらない。

この質問項目から全体的に言えることは、やや古いデータではあるが、よく参照される調査のデータにおいては、誰も頼れる人がいない人が日本では 15%もいるとされていたので、それからすると能美市の市民では誰も頼れる人がいないような方々は少なくなっている。

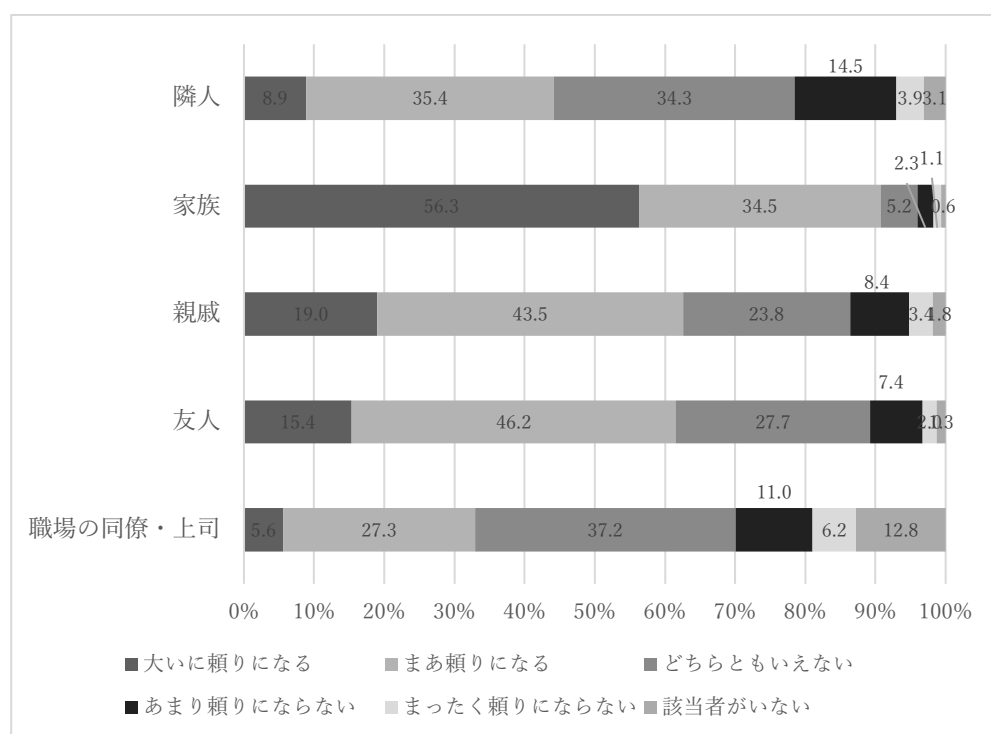


図 6.3 頼れる人（単位：％）

5 望まれる福祉施策

最後に、安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めるためにどのような取り組みが重要であると考えているかを尋ねた。図 6.4 を見ると、能美市の市民の方々が重要な取り組みであると考えているものとして、「地域福祉の推進」が最も多く、「とても重要で

ある」と「ある程度重要である」を合わせると、88%に及んでいる。ついで、健康づくりと社会保険制度が80%を超えている。逆に、あまり重視されていないものに注目すると、市営住宅と外国人支援が挙げられる。これらは多くの能美市民においてはあまり課題になっていないようだ。

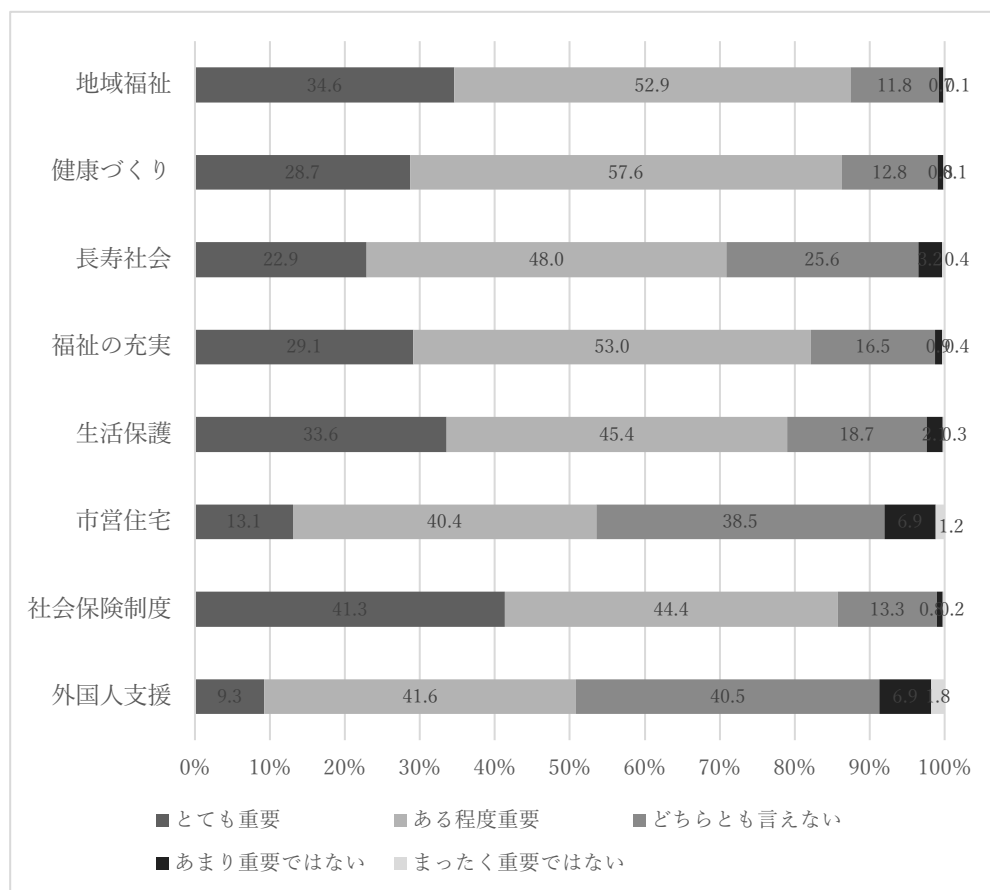


図 6.4 望まれる福祉施策（単位：％）

6 おわりに

調査結果から見ると、全体的に能美市民は健康状態がよく、福祉のより一層の充実を望んでいるものの、良好な状態で安心して暮らしている人が多いと言えそうである。

第7章 協働によるまちづくりについての分析

眞鍋 知子

1 はじめに

本章では、能美市における地域活動、市民活動および市民と行政の協働によるまちづくりに関わる11の質問への回答を分析する。具体的には、(1)住民組織活動への参加の程度、必要だと思う市民活動と実際にしている(したことがある)市民活動、市民活動の非参加者への今後の活動意向、(2)能美市行政への関心、協働のまちづくりへの評価、協働のまちづくり活動への関心、協働のまちづくりへの参加意向、参加できない理由、(3)能美市の情報発信への評価、市政情報媒体の重要度、能美市から入手したい情報、という3つの分野から構成されている。

2 住民組織参加や市民活動について

はじめに、「問26 あなたは、以下のような住民組織の活動にどの程度参加していますか」と8項目について尋ねている(図7.1)。「よく参加する」、「ある程度参加する」という肯定的な回答を合計すると、「a. 自治会(町会・町内会)」のみ5割を超えた。次に多かったのは、「f. 公民館」の35.4%である。「老人会、老人クラブ」や「青年団・壮年団」は年齢階梯集団であり、「婦人会・女性会」は会員の性別が限定されることから、もともと参加資格がないのか、あっても入っていないのかを今後の分析で検討していく必要があるだろう。「ボランティアグループなどの社会奉仕団体」への参加は、「よく参加する」、「ある程度参加する」人の合計が16.4%であった。

次に、「問27 あなたが、社会全体において、日ごろから必要だと思う市民活動はどのような活動ですか」という質問に対して、最も多かったのは「社会福祉・保健・医療等に関する活動」であり、4割を占めた。次に多かったのは、「地域活性化、まちづくりに関する活動」の2割であった(図7.2)。高齢化が進む地域社会のなかで、福祉的な活動の重要性が認識されている。

続けて、「問28 【町会・町内会、婦人会、老人会などの住民組織活動を除いてお答えください】あなたが、現在している(これまでにしたことがある)市民活動はどのような活動ですか」という問いに対して複数回答で答えてもらったところ、「市民活動に参加したことがない」という回答が最も多く、半数を占めた。活動している中で最も多かったのは「体育、スポーツ、文化芸術に関する活動」であり、約3割近かった(図7.3)。

問27の結果と比較してみると、最も必要だと思われる「社会福祉、保健、医療等に関する活動」を現在している(したことがある)人は11.9%しかいない。その一方で、最も必要性の低かった「体育、スポーツ、文化芸術に関する活動」を現在している(したことがある)人が最も多いという結果となった。必要であることと実際にしてい

ることに乖離がある。この差をどう埋めていくのかについて検討が必要である。

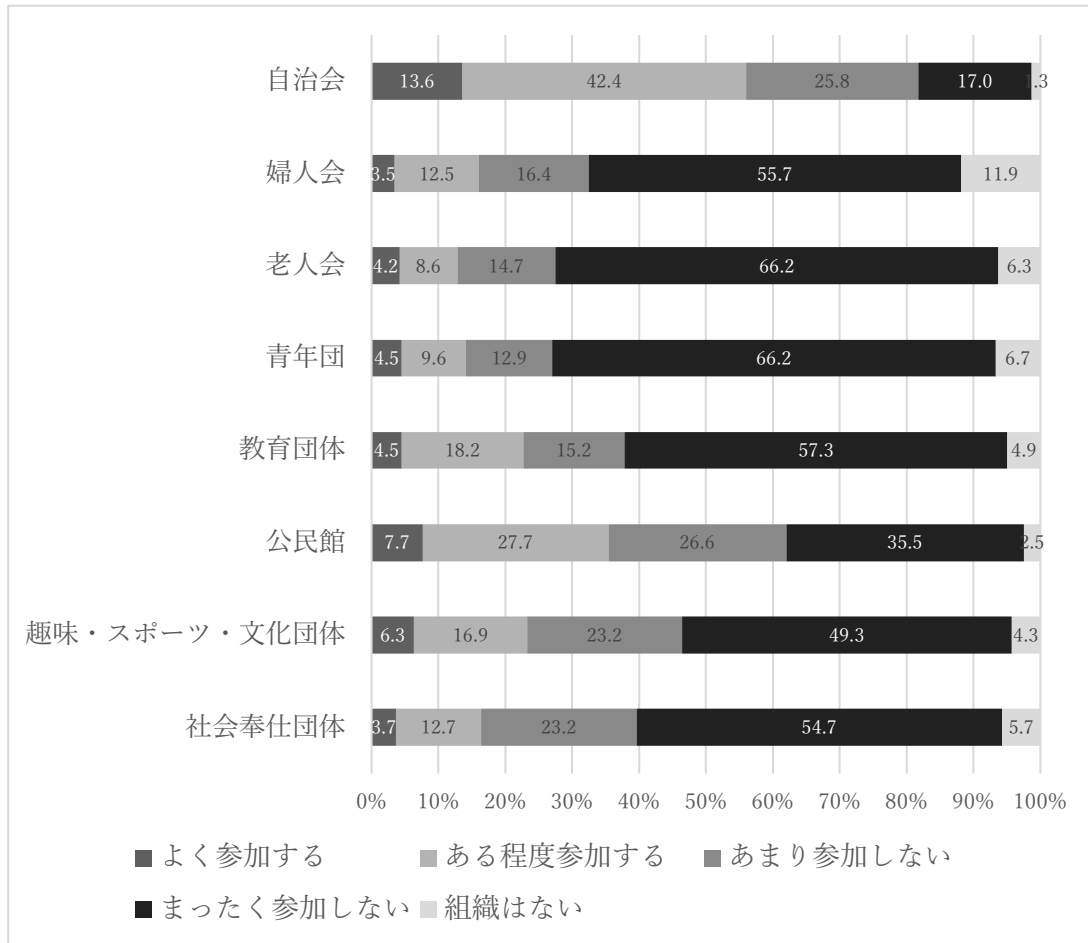


図7.1 住民組織活動への参加度（単位：％）

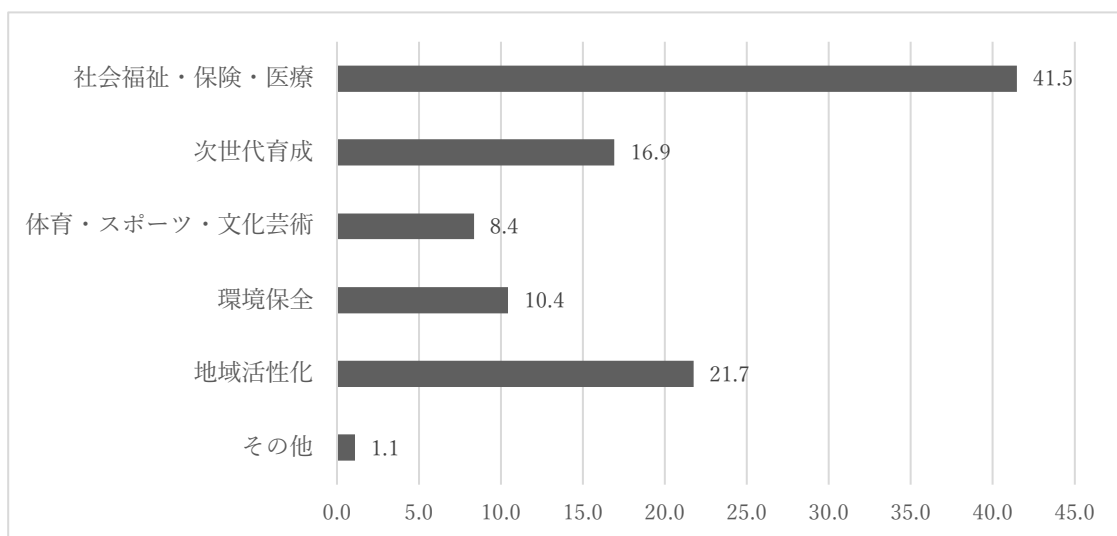


図7.2 必要な市民活動（N=1389, 単位：％）

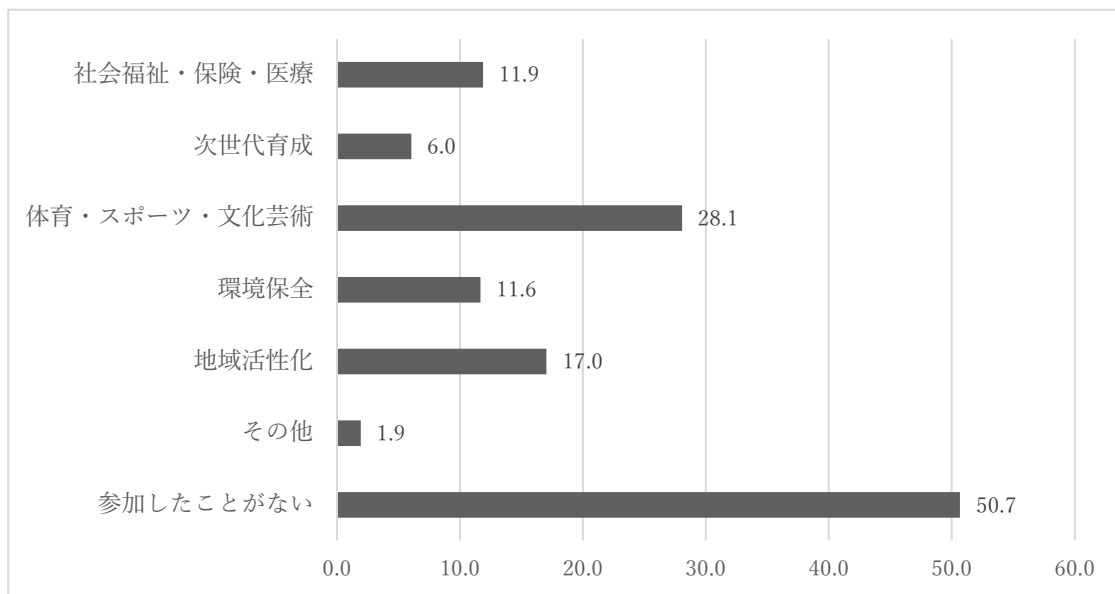


図 7.3 参加している市民活動（複数回答，単位：％）

問 28 で，市民活動に参加したことがないと回答した 714 人に対して，「あなたは，今後，市民活動に参加してみたいと思いますか」とさらに質問した(図 7.4)．その結果，「とても参加してみたい」，「ある程度参加してみたい」の合計は約 3 割だった．活動に参加したことのない人が 50.7%で，そのうちの 31.9%に参加意向があったので，全体の 16.2%，すなわち市民の 6 人に 1 人くらいはこれからの活動を期待できる予備軍であり，この層にどうやって参加を促すきっかけをもってもらうかについて考えることが重要である．

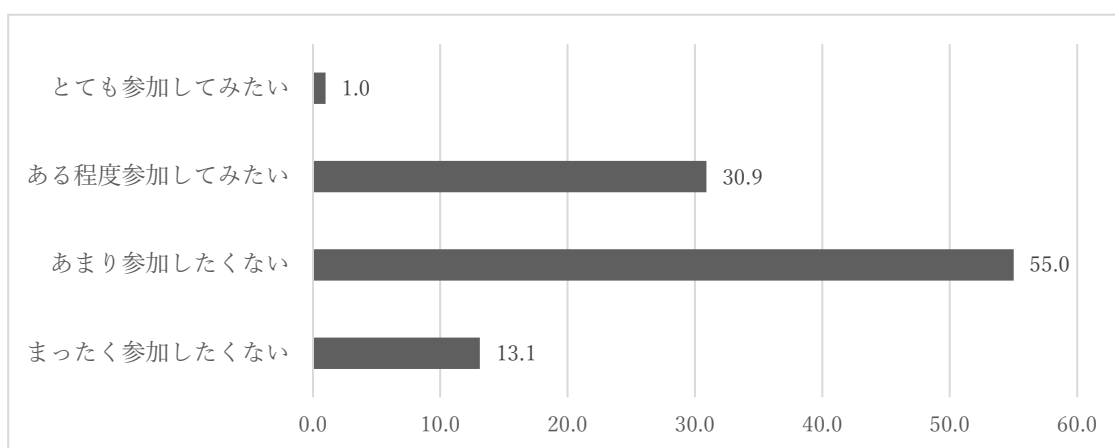


図 7.4 市民活動への参加意向 (N=714, 単位：％)

3 市民と行政との協働のまちづくりについて

「問29 あなたは、能美市の行政に関心がありますか」との問いに、4分位で回答してもらったところ、「たいへん関心がある」、「ある程度関心がある」の合計は、6割を超えた(図7.5)。逆に4割近くが関心を持っていないということになり、有権者である市民の市政への関心をいかに上げていくかが課題である。

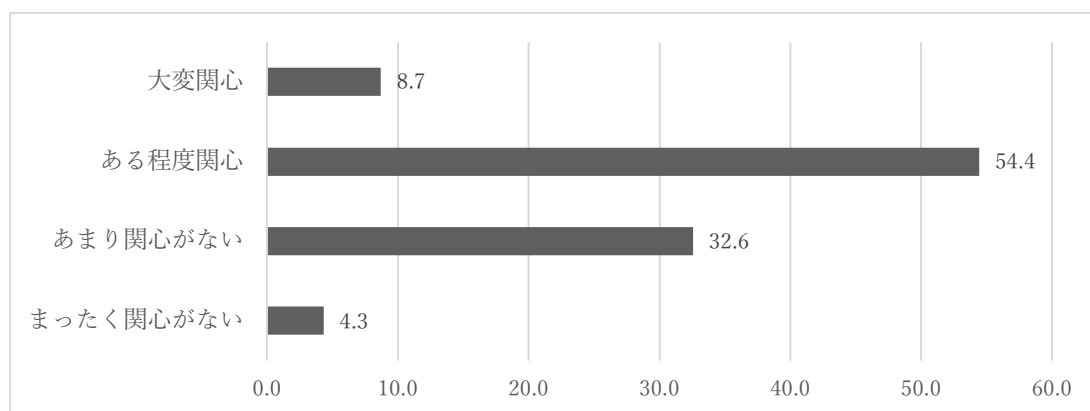


図7.5 能美市行政への関心度 (N=1413, 単位: %)

「問30 能美市では、市民と行政の協働によるまちづくりが進んでいると思いますか」という質問に4分位で答えてもらったところ、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は6割に近かった(図7.6)。前の質問同様に、進んでいると思わない人が4割以上いるという結果であり、協働のまちづくりを今後ますます進め、それを市民に可視化していくことが望まれる。

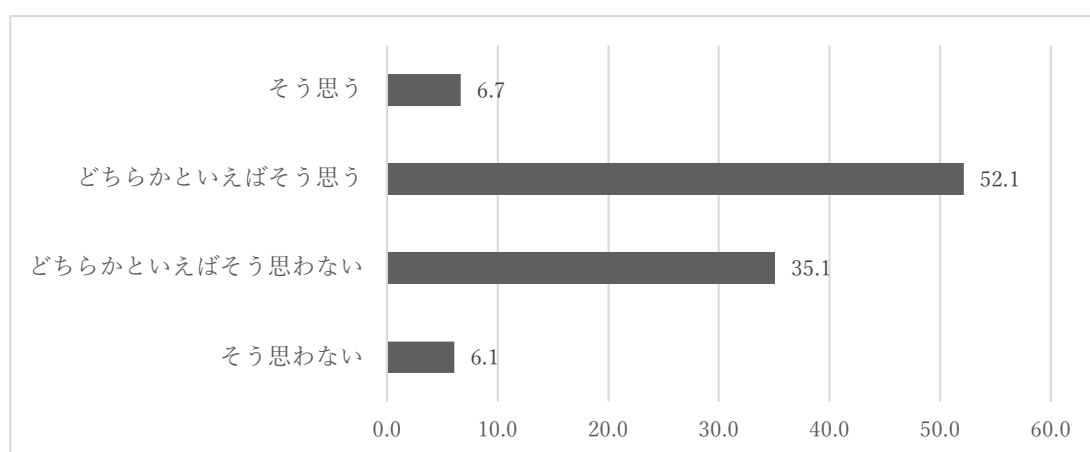


図7.6 協働のまちづくりが進んでいるか (N=1397, 単位: %)

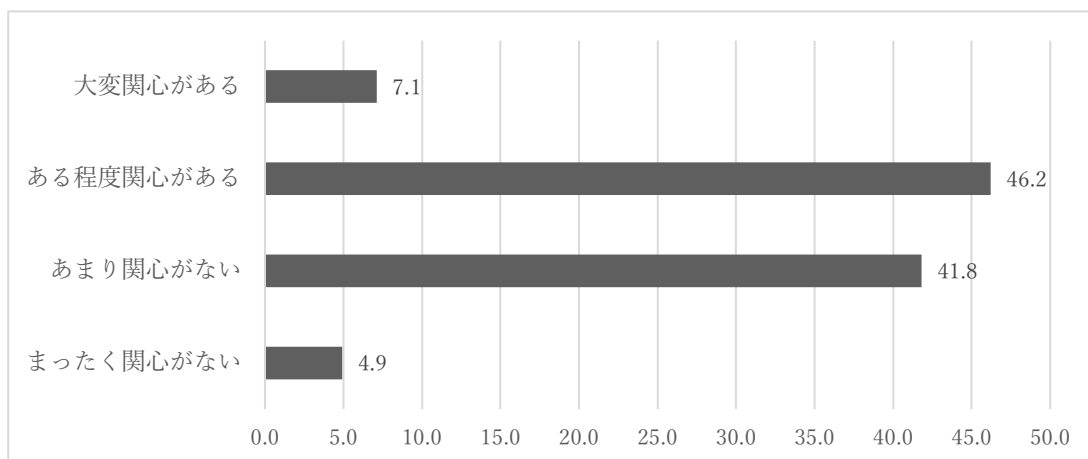


図 7.7 協働のまちづくりへの関心度 (N=1407, 単位：%)

次に、「問 3 1 あなたは、市民と行政の協働によるまちづくりの活動に関心がありますか」という問いに 4 分位で回答してもらったところ、「たいへん関心がある」、「ある程度関心がある」の合計は 5 割余で、関心のある層とない層が半々という結果になった(図 7.7)。

続けて、「問 3 2 (1) 市民と行政の協働によるまちづくりについて、あなたはどのような方法で参加したいと思いますか」と複数回答で質問したところ、最も多かった回答は「参加できない」で、半数を超えた。参加したい方法としては、「NPO やボランティアなどの幅広い活動を通して参加する」、「インターネットなどを利用して、行政に対する意見や提言を行うことによって参加する」がそれぞれ 2 割近くを占めた(図 7.8)。

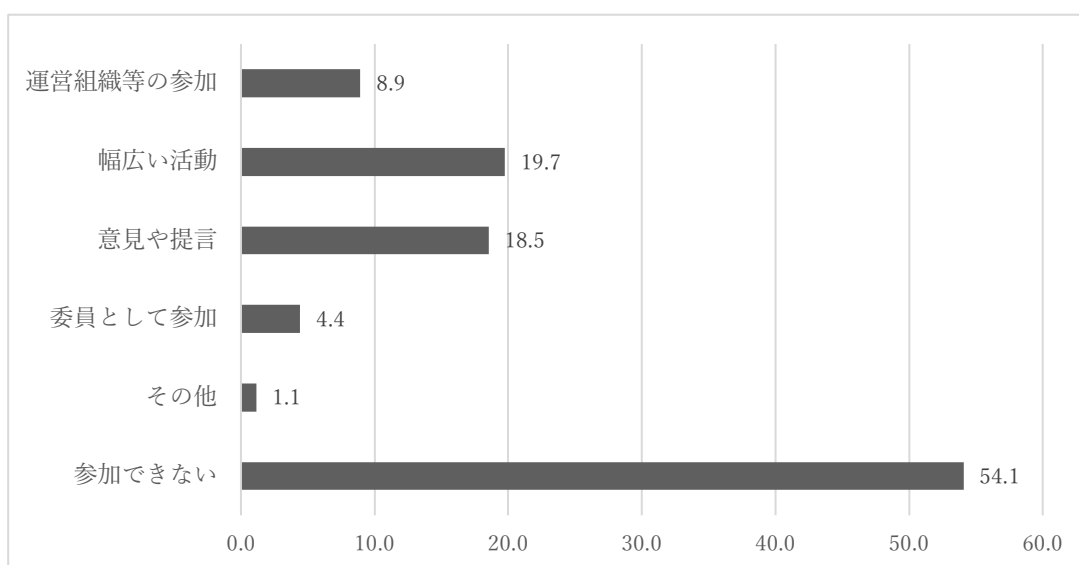


図 7.8 協働のまちづくりへの参加方法 (複数回答, 単位：%)

問32で「参加できない」と回答した757人に対して「協働のまちづくりに参加できない理由は何ですか」と複数回答で尋ねた(図7.9)。「時間がないから」が最も多く、4割の人が選択した。だが、この理由を回答した人は、将来時間ができれば参加してくれるという可能性を残している。次に多かったのは「興味がないから」で3割近く、「高齢・健康上の理由から」が2割余であった。

「参加方法がわからないから」19.8%、「一緒に活動する人がいないから」15.9%という理由については、活動に関する情報提供や場づくりなど適切に対応することで解消されるのではないだろうか。

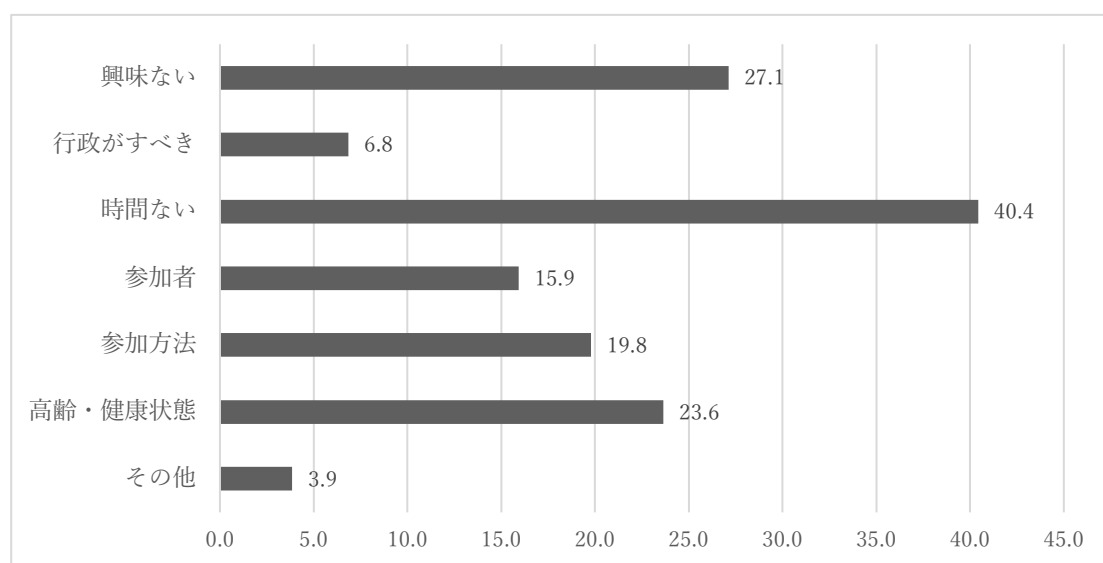


図7.9 協働のまちづくりに参加できない理由（複数回答，単位：%）

4 能美市の情報発信

情報提供の重要性を確認したところで、次に、「問33 あなたは、能美市では市の魅力や取り組みなどに関する情報発信が積極的に行われていると思いますか」という質問に4分位で回答してもらったところ、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は6割近くに上った。けれども、4割以上的人是積極的な情報発信をしているとは思っておらず、情報提供の方法に課題があることが明らかになった(図7.10)。

そこで、どのような媒体での情報提供が効果的かを探るために、「問34 あなたは、市政情報の入手について、以下にあげるツール・媒体がどの程度重要だと思いますか」と12項目について、5分位で尋ねた(図7.11)。その結果、「とても重要である」、「ある程度重要である」を合計すると、高い順に、「a. 市の広報紙」86.6%、「j. 防災行政無線放送」76.5%、「c. 市のホームページ」73.4%、「b. 市役所の窓口」72.1%だった。市が直接運営する情報媒体の重要度が高い。一方で、「あまり重要ではない」、「まったく重要ではない」を合計した数値の最も高いのは、「i. ユーチューブ (Youtube) な

どの動画サイト」21.9%、「h. フェイスブック（Facebook）などのSNS」19.2%の順だった。ICTを活用した市政のよりより情報提供の方法については、今後課題になると思われる。

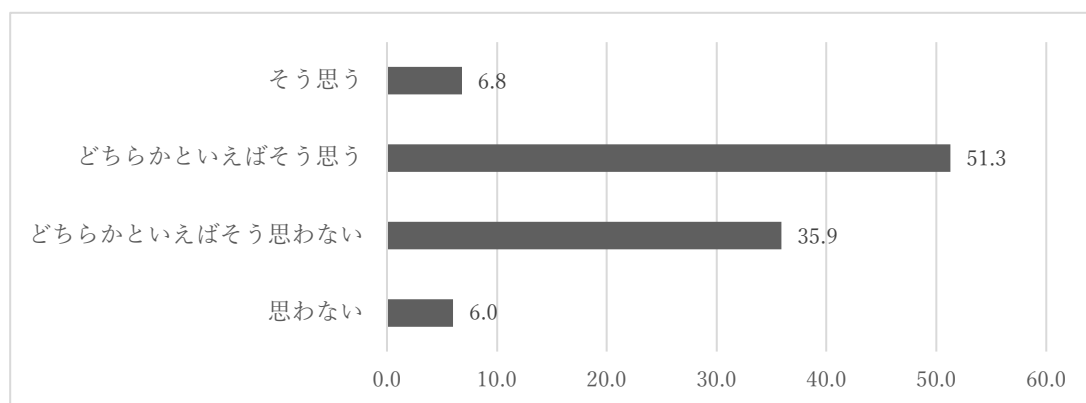


図7.10 能美市の情報発信の積極性 (N=1379, 単位：%)

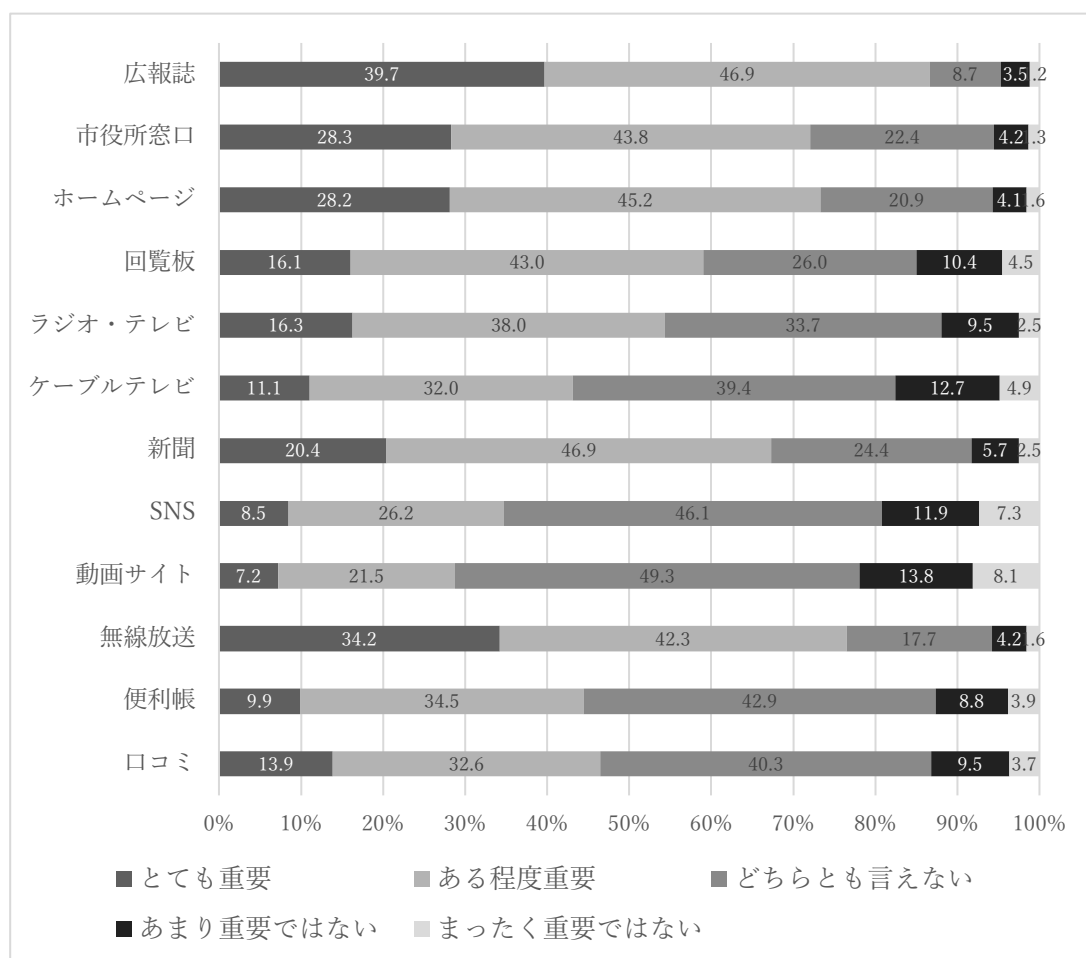


図7.11 市政情報入手ツールの重要度

そこで、SNS や動画サイトの重要度について、それぞれ年齢別にクロス表分析を行った(図 7.12, 図 7.13)。その結果、年齢と重要度とのあいだに統計的に有意な関連がみられた。年齢が若くなればなるほど、SNS や動画サイトによる市政情報の入手が重要であると回答する傾向がある。

さらに、情報の内容についても尋ねた。「問 3 5 あなたは、能美市から配信される情報として、もっと知りたいと思うのはどのようなものですか」という問いに複数回答で答えてもらったところ、「防災・災害情報」62.3%、「環境・リサイクル・ごみ収集等情報」54.0%、「各種イベント・催しものの情報」52.1%、「不審者等の防犯情報」50.6%の順に高かった。逆に、低かった項目は順に、「ライフイベント（結婚・出産・引越しなど）に関する情報」9.6%、「自治会や NPO などの地域コミュニティ情報」11.2%、「市議会に関する情報」12.9%、「各種調査結果・統計資料等の情報」13.0%という結果だった(図 7.14)。これらの項目は、情報として必要とされていないと考えることもできるが、すでに十分に情報が行き渡っており、もっと知りたいと思うものではないと解釈することもできる。

市民に提供する情報の内容についても、性別や年齢別などによってさらに詳細に回答を分析することで、内容にふさわしい適切な媒体を使って情報を届けることが可能になるだろう。

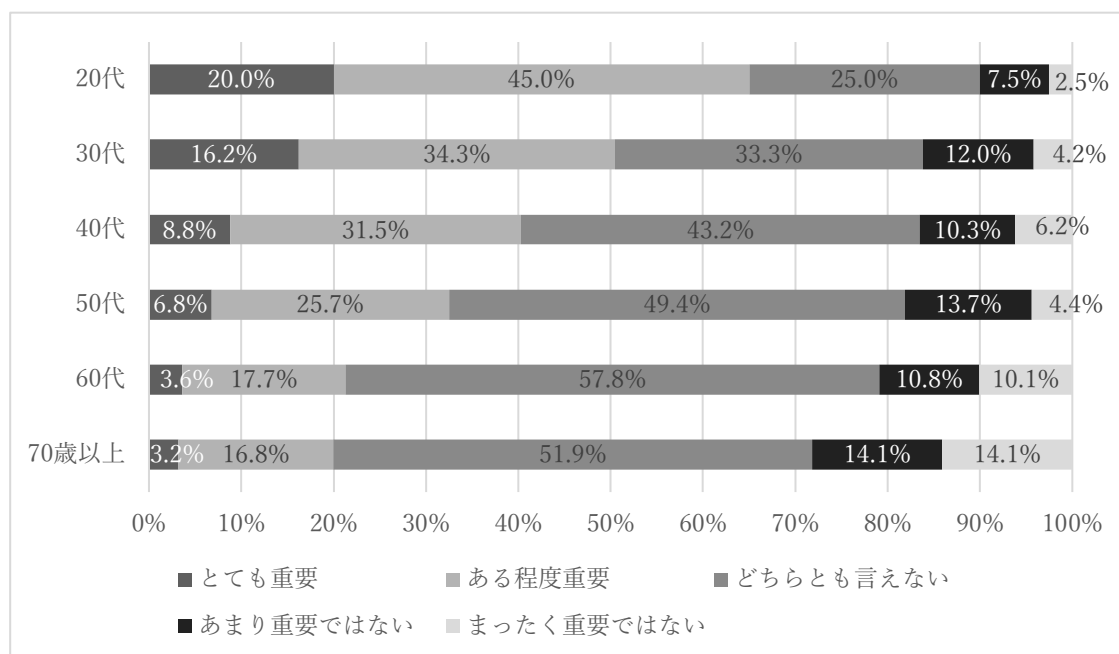


図 7.12 年齢別 SNS の重要度 ($\chi^2 = 128.0$ d.f.=20 p=0.000)

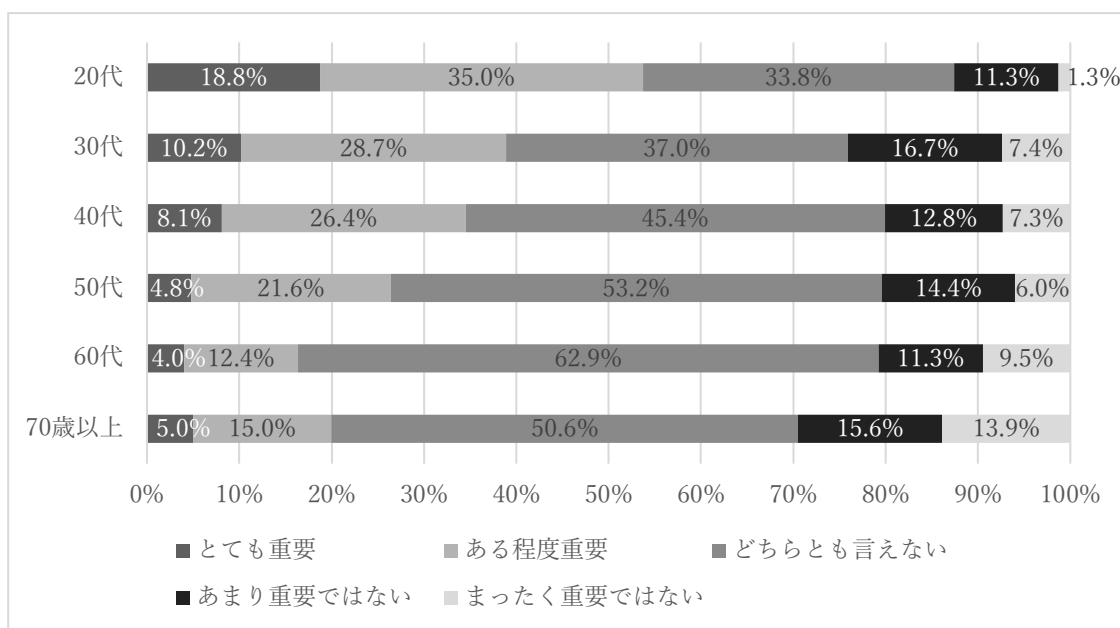


図 7.13 年齢別動画サイトの重要度 ($\chi^2=94.5$ d.f.=20 p=0.000)

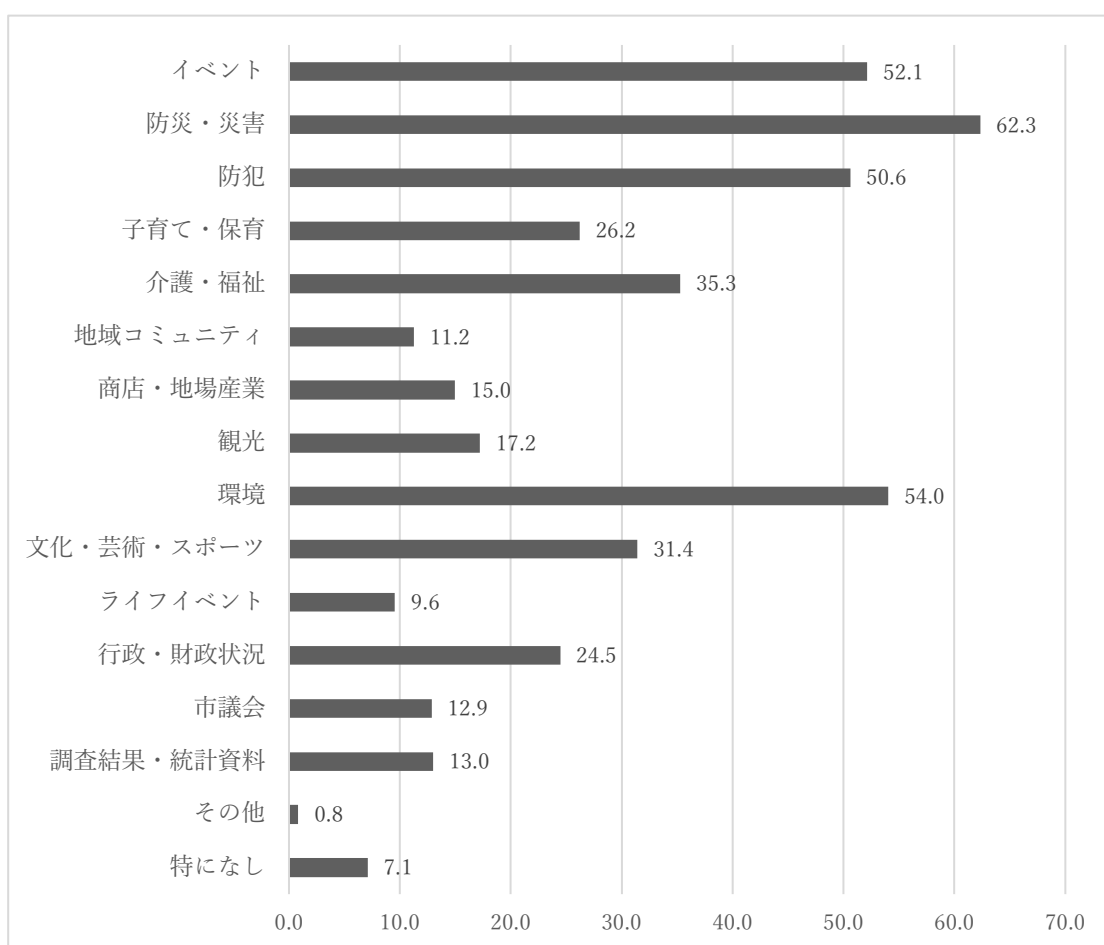


図 7.14 市政情報で知りたいもの（複数回答，単位：%）